

第13節 動物

対象道路事業実施区域及びその周辺には重要な種及び注目すべき生息地*が確認されており、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物への影響が考えられるため、動物の調査、予測及び評価を行いました。

※注目すべき生息地：学術上若しくは希少性の観点から重要である生息地又は地域の象徴であることや、その他の理由により重要性が高いと考えられる生息地を示します。

13.1 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物

1) 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

a) 動物の生息の状況

動物相(哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類・クモ類、陸産貝類、底生動物)の状況について調査しました。

b) 重要な種及び注目すべき生息地の状況

重要な種及び注目すべき生息地の状況について調査しました。

② 調査の手法

既存資料調査及び現地調査により動物相の状況、重要な種及び注目すべき生息地の状況の調査を行いました。

a) 動物の生息の状況

動物の生息状況の調査は、表 8-13-1 に示す手法により現地調査を実施しました。

表 8-13-1 現地調査の手法

項目	調査手法	調査手法の解説
哺乳類	直接観察	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
	フィールドサイン法	調査地域を任意に踏査し、糞、足跡、食痕、爪痕、営巣の跡等により生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域に、主にネズミ等の小型哺乳類を対象に、生け捕り用罟（シャーマントラップ）等を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
鳥類	直接観察	調査地域を任意に踏査し、目視又は鳴き声等により生息種の確認・記録を行った。
	ラインセンサス法	調査地域に調査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、一定範囲内において出現した鳥類を目視や鳴き声により生息種の確認・記録を行った。
	定点観察法	調査地域の見通しがきく場所等に観察地点を定め、そこからの観察により生息種の確認・記録を行った。
猛禽類	定点観察法	調査地域に観察地点(定点)を設置し、各地点の可視範囲内において出現する猛禽類を識別し、生息種の確認・記録を行った。各地点間は無線機により連携を図り、出現した猛禽類の飛翔の経路を記録した。また、定点観察を補足するため、任意踏査による確認を行った。
爬虫類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域の主要な河川及び池において、主にカメ類を対象に、かご罟を設置し、捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
両生類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視又は鳴き声により生息種の確認・記録を行った。
魚類	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池において、投網、タモ網等を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行った。
	トラップによる捕獲	調査地域の主要な河川及び池において、セルびん、刺し網、かご罟等を用いて捕獲することにより生息種の確認・記録を行った。
昆虫類 ・クモ類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、見つけ採り、スウィーピング、ビーティング等による任意採集（クモ類を含む）により生息種の確認・記録を行った。
	ライトトラップ法	調査地域に設定した地点において、夜間に光源(地面に対して垂直に張った白布に光を反射させたもの)を置き、これに集まる種（主にガ類、コウチュウ類等の走光性昆虫）を採集することにより生息種の確認・記録を行った。
	ベイトトラップ法	調査地域の複数の地点において、誘因餌（ベイト）を入れたプラスチックカップを地中に埋めて一晩放置し、翌日誘引された種（主にオサムシ類、ゴミムシ類、アリ類等の地表徘徊性昆虫）を採集することにより生息種の確認・記録を行った。
陸産貝類	直接観察及び採取	調査地域を任意に踏査し、目視等により生息種の確認・記録を行った。
底生動物	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池において、タモ網等を用いて採取することにより生息種の確認・記録を行った。
	コドラート法	調査地域の主要な河川及び池において、エクマン・バージ型採泥器を用いた定量採取を行い、分析室に持ち帰り、分析することにより、生息種の確認・記録を行った。

b) 重要な種の状況

(a) 重要な種の生態

重要な種の生態については、表 8-13-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 8-13-2 既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月又は資料確認時点
日本の哺乳類〔改訂版〕	東海大学出版会	平成 6 年 12 月
原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>	(株)保育社	平成 7 年 3 月
原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>	(株)保育社	平成 7 年 2 月
図鑑 日本のワシタカ類	(株)文一総合出版	平成 7 年 8 月
オオタカの営巣地における森林施業 生息環境の管理と間伐等における対応	(社)日本林業技術協会	平成 10 年 7 月
大阪市立自然史博物館研究報告 64 号「トウヨシノボリ縞鱈型の再定義と新標準和名の提唱」	大阪市立自然史博物館	平成 22 年 3 月
山溪カラー名鑑 日本の淡水魚	(株)山と溪谷社	昭和 64 年 11 月
検索入門 セミ・バッタ	(株)保育社	平成 4 年 5 月
原色昆虫大図鑑〔第 3 巻〕	(株)北隆館	昭和 40 年 5 月
原色日本昆虫図鑑(上)・甲虫編	(株)保育社	平成 4 年 9 月
原色日本甲虫図鑑(Ⅱ)	(株)保育社	昭和 60 年 1 月
原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑	北海道大学図書刊行会	平成 11 年 7 月
写真・日本クモ類大図鑑	(株)偕成社	昭和 64 年 10 月
日本産クモ類	東海大学出版会	平成 21 年 8 月
日本のクモ	文一総合出版	平成 18 年 11 月
干潟ベントスフィールド図鑑	日本国際湿地保全連合	平成 25 年 5 月
レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生動物	(株)ぎょうせい	平成 26 年 9 月 平成 27 年 2 月
近畿地区・鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発	京都大学学術出版会	平成 14 年 3 月
大阪府における保護上重要な野生生物ー大阪府レッドデータブックー	大阪府	平成 12 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2014 (貝類・その他無脊椎動物)	(財)ひょうご環境創造協会	平成 26 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2013 (鳥類)	(財)ひょうご環境創造協会	平成 25 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2012 (昆虫類)	(財)ひょうご環境創造協会	平成 24 年 3 月
改訂・兵庫の貴重な自然ー兵庫県版レッドデータブック 2003ー	(財)ひょうご環境創造協会	平成 15 年 3 月
京都府レッドデータブック上巻 野生生物編	京都府	平成 14 年 4 月
大切にしたい奈良県の野生動植物ー奈良県版レッドデータブックー脊椎動物編	奈良県	平成 18 年 3 月
滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県レッドデータブック 2010 年版ー	滋賀県	平成 23 年 3 月
保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー	和歌山県	平成 13 年 3 月
保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー【2012 年改訂版】	和歌山県	平成 24 年 3 月

(b) 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況については、表 8-13-3 に示す選定基準に該当する種について、「a) 動物の生息の状況」の調査と併せて行いました。

表 8-13-3 重要な動物種の選定基準

番号	文献及び法律名等	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年大阪府条例第 5 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 1 哺乳類」 「レッドデータブック 2014 2 鳥類」 「レッドデータブック 2014 3 爬虫類・両生類」 「レッドデータブック 2014 6 貝類」 「レッドデータブック 2014 7 その他無脊椎動物」 (平成 26 年 9 月、環境省) 「レッドデータブック 2014 4 汽水・淡水魚類」 「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」 (平成 27 年 2 月、環境省)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅(飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)
④	「大阪府レッドリスト 2014」 (平成 26 年 3 月、大阪府)	絶滅：絶滅(本府ではすでに絶滅したと考えられる種) Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) 準絶：準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種) 不足：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) 要注：要注目(注目を要する種)
⑤	「近畿地区・鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発」 (平成 14 年、京都大学学術出版会)	繁殖：繁殖個体群 越冬：越冬個体群 通過：通過個体群 夏季：夏季滞在個体群 1：ランク 1ー危機的絶滅危惧種 2：ランク 2ー絶滅危惧種 3：ランク 3ー準絶滅危惧種 4：ランク 4ー要注目種(特に危険なしの種を除く)

c) 注目すべき生息地の状況

注目すべき生息地の状況については、文献その他の資料により法令又は条例、条約等による生息地の指定状況を調査しました。

また、注目すべき生息地の選定にあたっては、最新の法律や文献により判断するものとし、表 8-13-4 に示す選定基準を用いました。

表 8-13-4 注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年大阪市条例第 5 号) 「守口市文化財保護条例」(平成 9 年守口市条例第 15 号)※	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 府指定天然記念物 市指定天然記念物
②	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(昭和 55 年条約第 28 号)	指定湿地
③	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	生息地等保護区(動物に係るもの)
④	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成 4 年条約第 7 号)	自然遺産の登録基準に該当するもの
⑤	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(平成 7 年、環境庁)に示された鳥類の集団繁殖地・集団ねぐら	地域の象徴であること等の理由により注目される生息地
⑥	「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会)	昆虫類の生物多様性保護の観点から選定された重要地域

※「守口市文化財保護条例」(平成 9 年守口市条例第 15 号)に基づく、天然記念物の指定はありません。

③ 調査地域

調査地域は、対象道路事業実施区域及びその端部から概ね 250mの範囲を目安としました。全域を踏査した上で、地表を改変しない又は自然度が低い都市域は対象外とし、調査地域を 2 地区（豊崎、鶴見）設定しました。

なお、動物の特性及び地形や植生の連続性を考慮しながら適宜拡大・縮小しました。

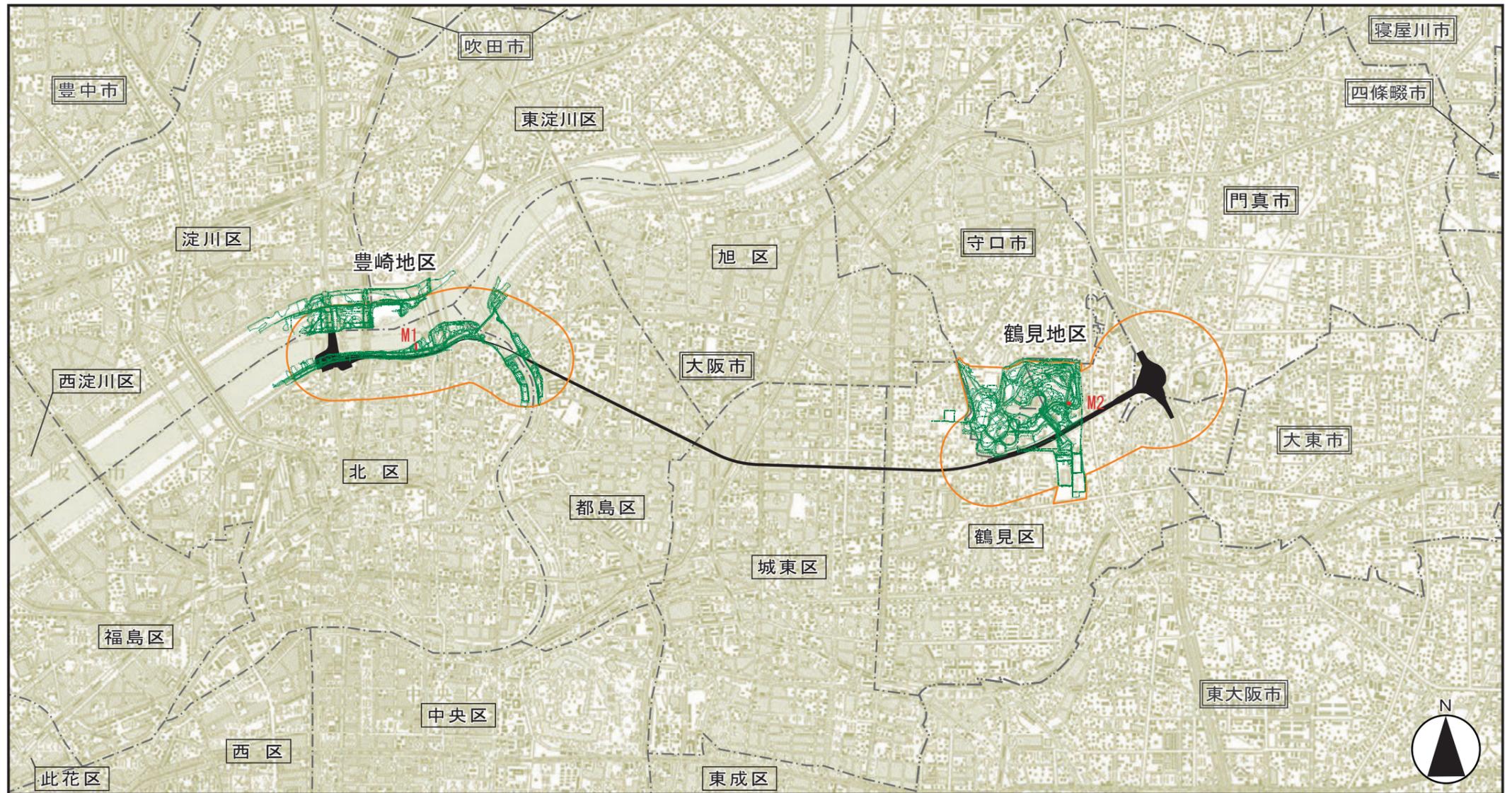
特に、猛禽類については、猛禽類の出現状況、生態的特性（行動圏）を踏まえ、調査地域を拡大しました。

調査地域を、図 8-13-1～図 8-13-9 に示します。

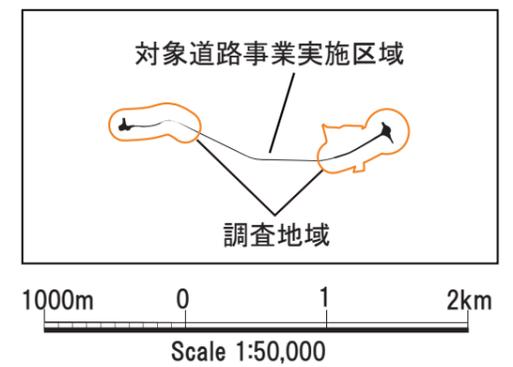
④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査対象動物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生息する動物を効率よく把握できる場所を設定しました。

調査地点及び調査ルートを、図 8-13-1～図 8-13-9 に示します。

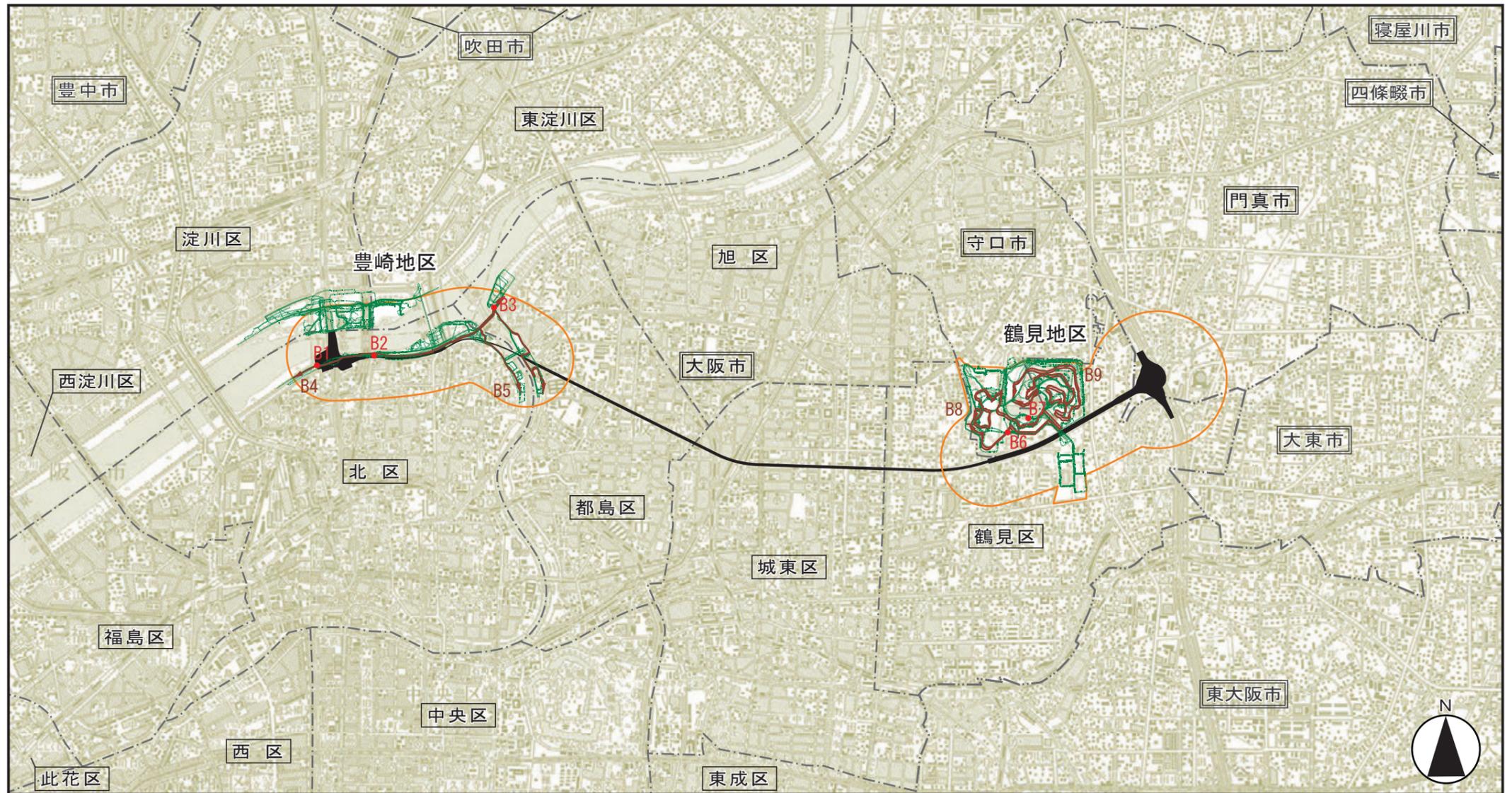


凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	
■	トラップ調査地点	M1, M2

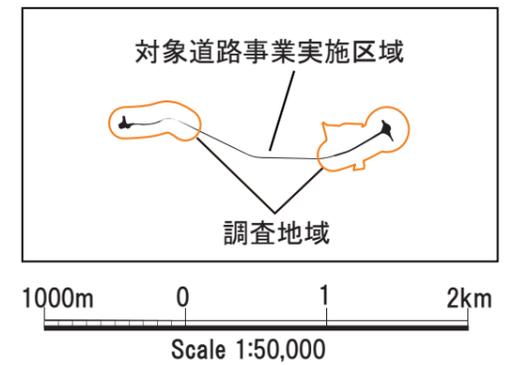


図名

図8-13-1 哺乳類調査位置図



凡 例		
記号	名 称	備 考
●	定点調査地点	B1~B3, B6, B7
↔	ラインセンサスルート	B4, B5, B8, B9
⋯	踏査ルート	



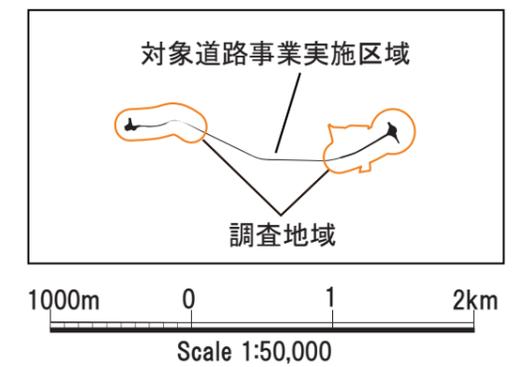
図名

図8-13-2 鳥類（猛禽類以外）調査位置図



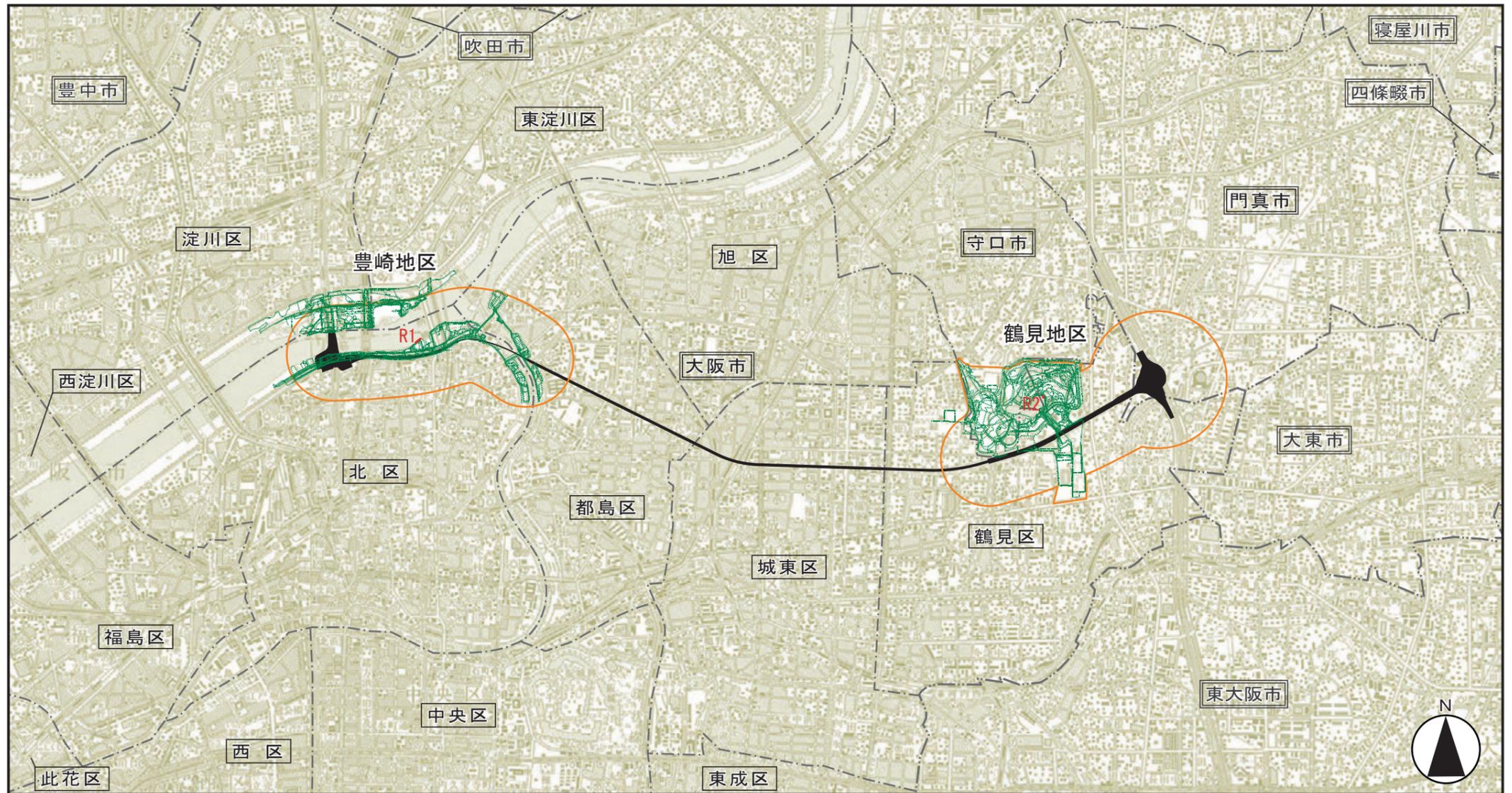
凡 例		
記号	名 称	備 考
●	定点調査地点	B1~B3, B6, B7
—	踏査ルート	

※調査地域は猛禽類の出現状況等をふまえ、適宜拡大しました。



図名

図8-13-3 鳥類（猛禽類）調査位置図



凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	
■	トラップ調査地点	R1, R2

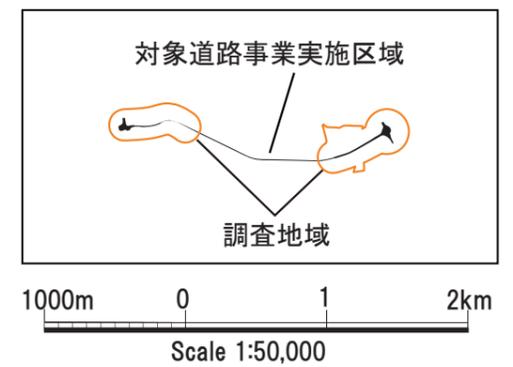
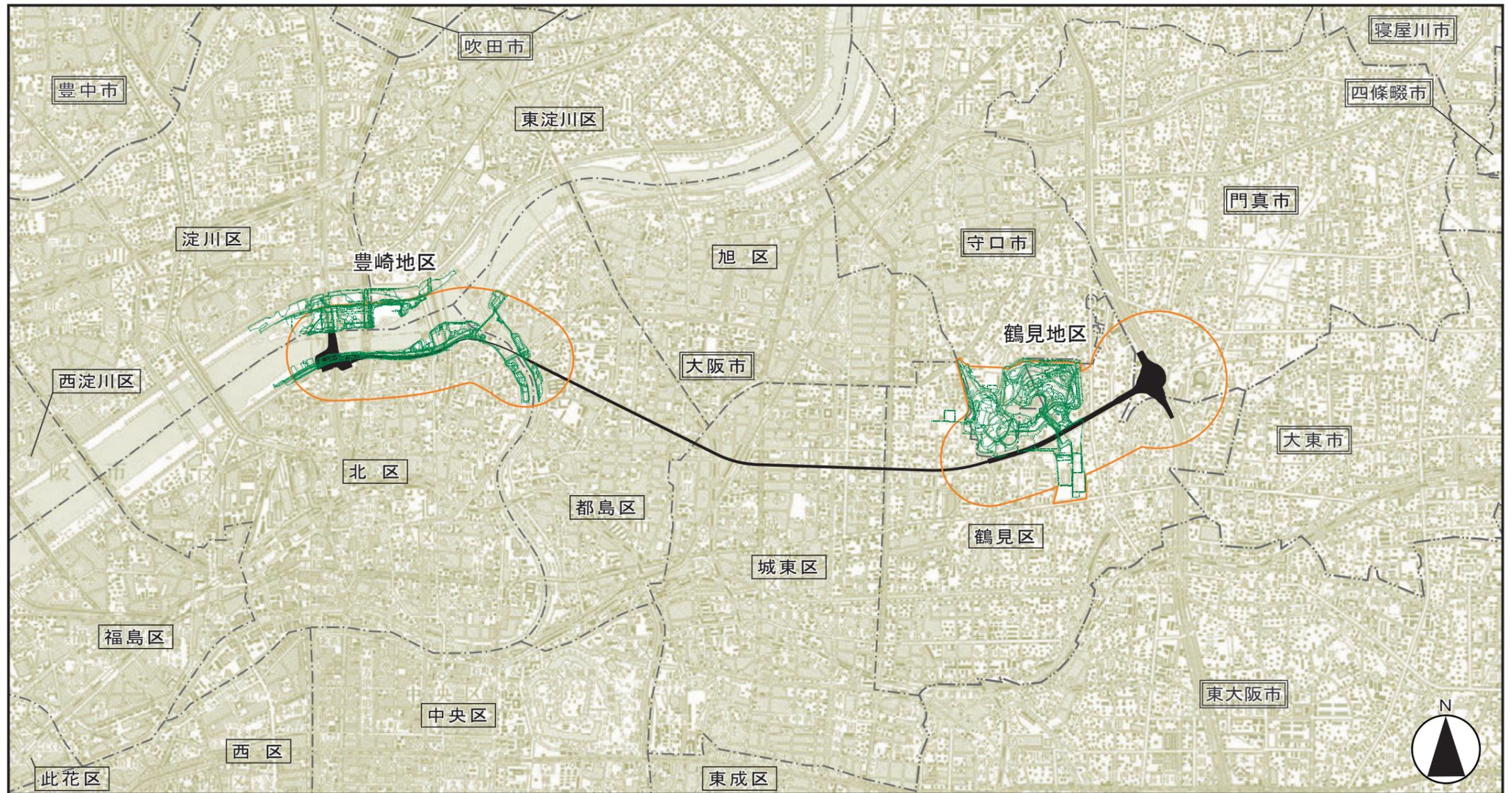


図
名

図8-13-4 爬虫類調査位置図



凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	

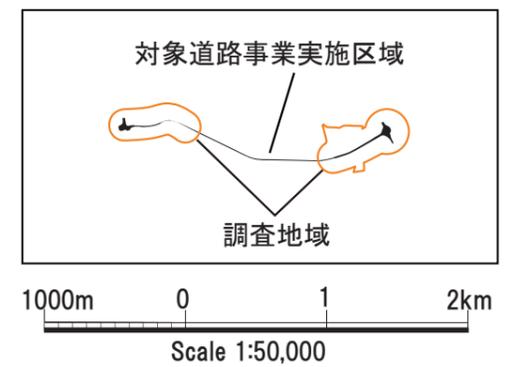
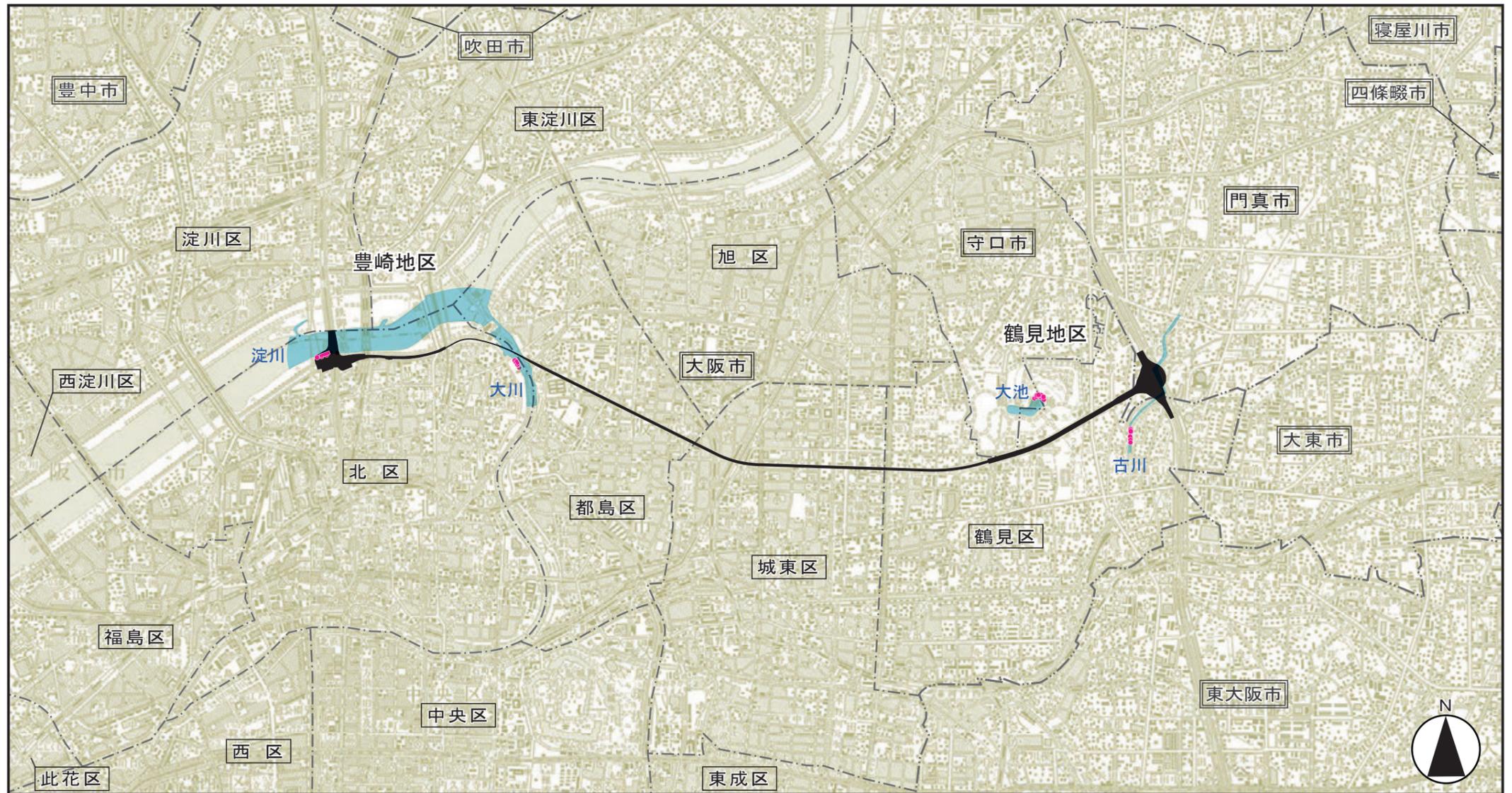
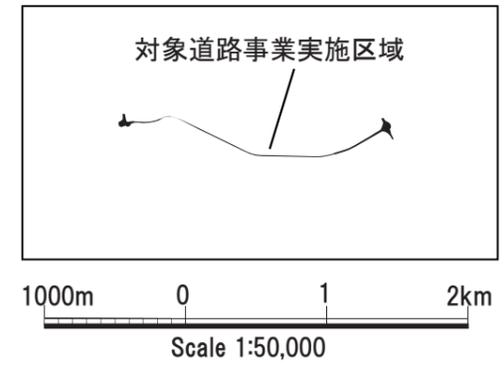


図
名

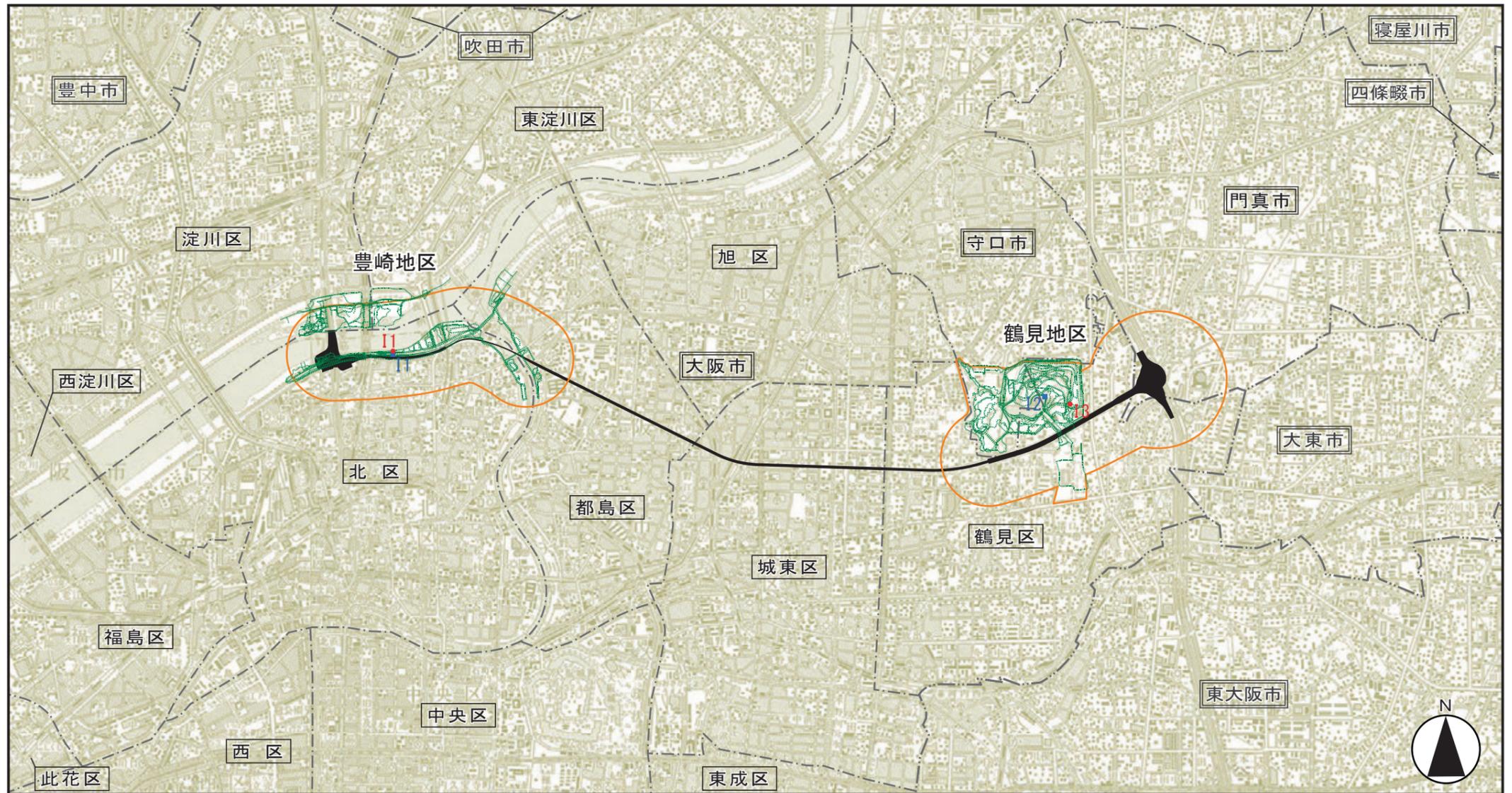
図8-13-5 両生類調査位置図



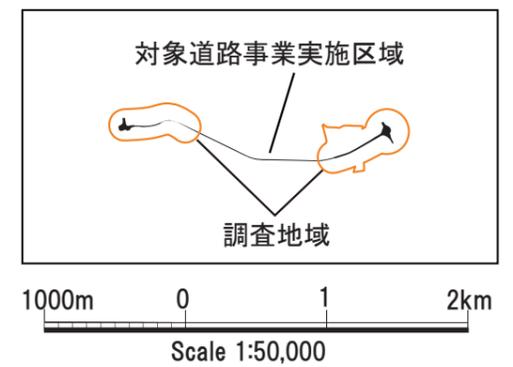
凡 例		
記号	名 称	備 考
●	トラップ調査地点	
■	調査対象河川	



図名 図8-13-6 魚類調査位置図

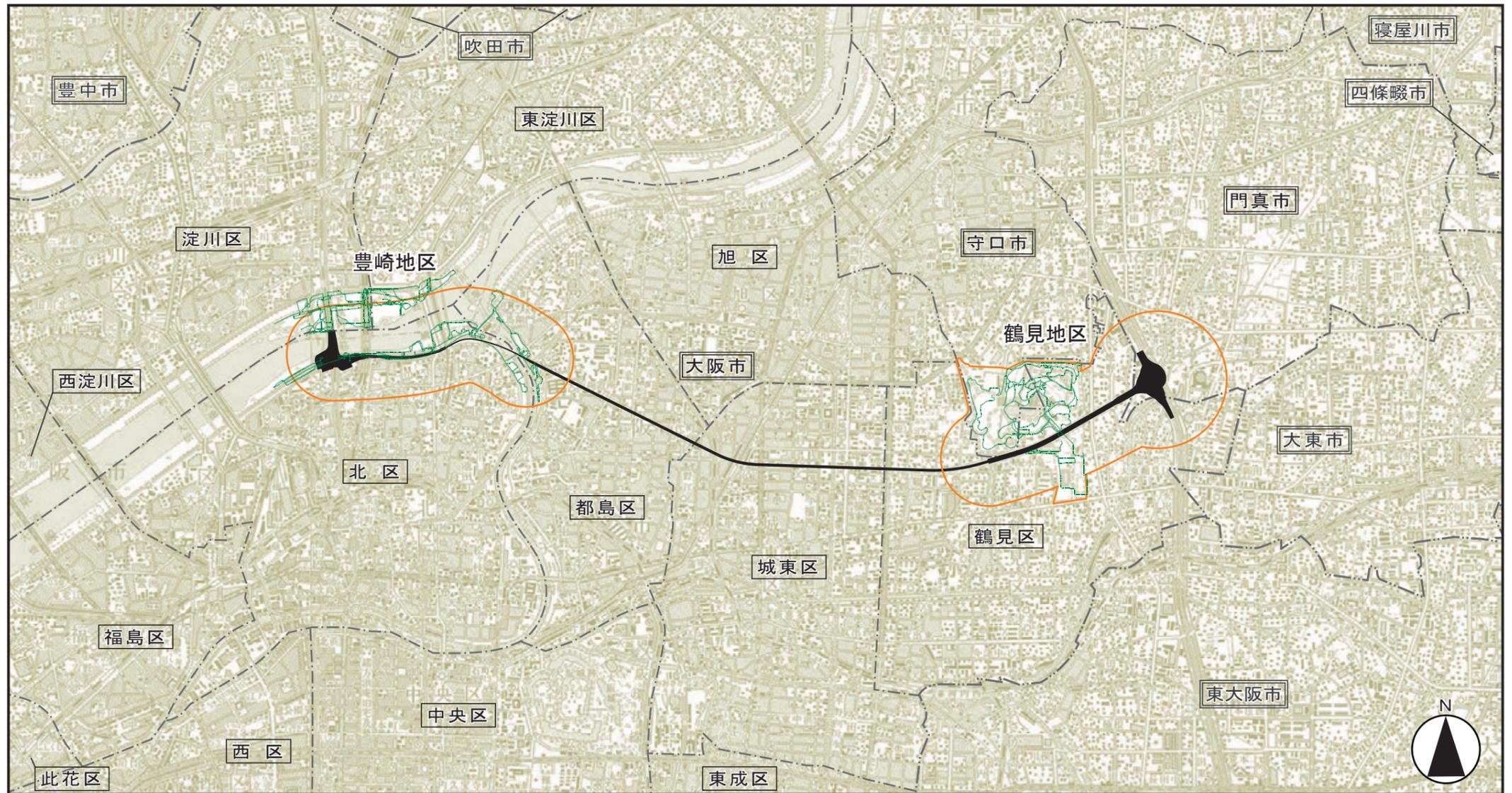


凡 例		
記号	名 称	備 考
●	ベイトトラップ	11, 13
■	ライトトラップ	11, 12
.....	踏査ルート	

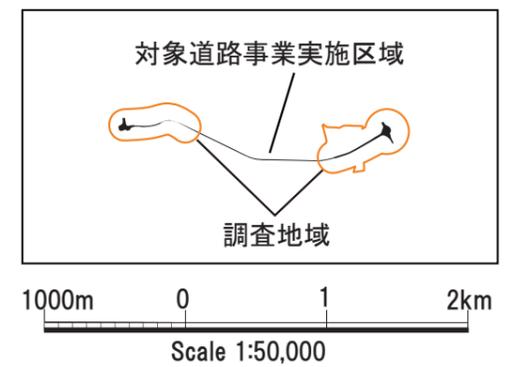


図名

図8-13-7 昆虫類・クモ類調査位置図

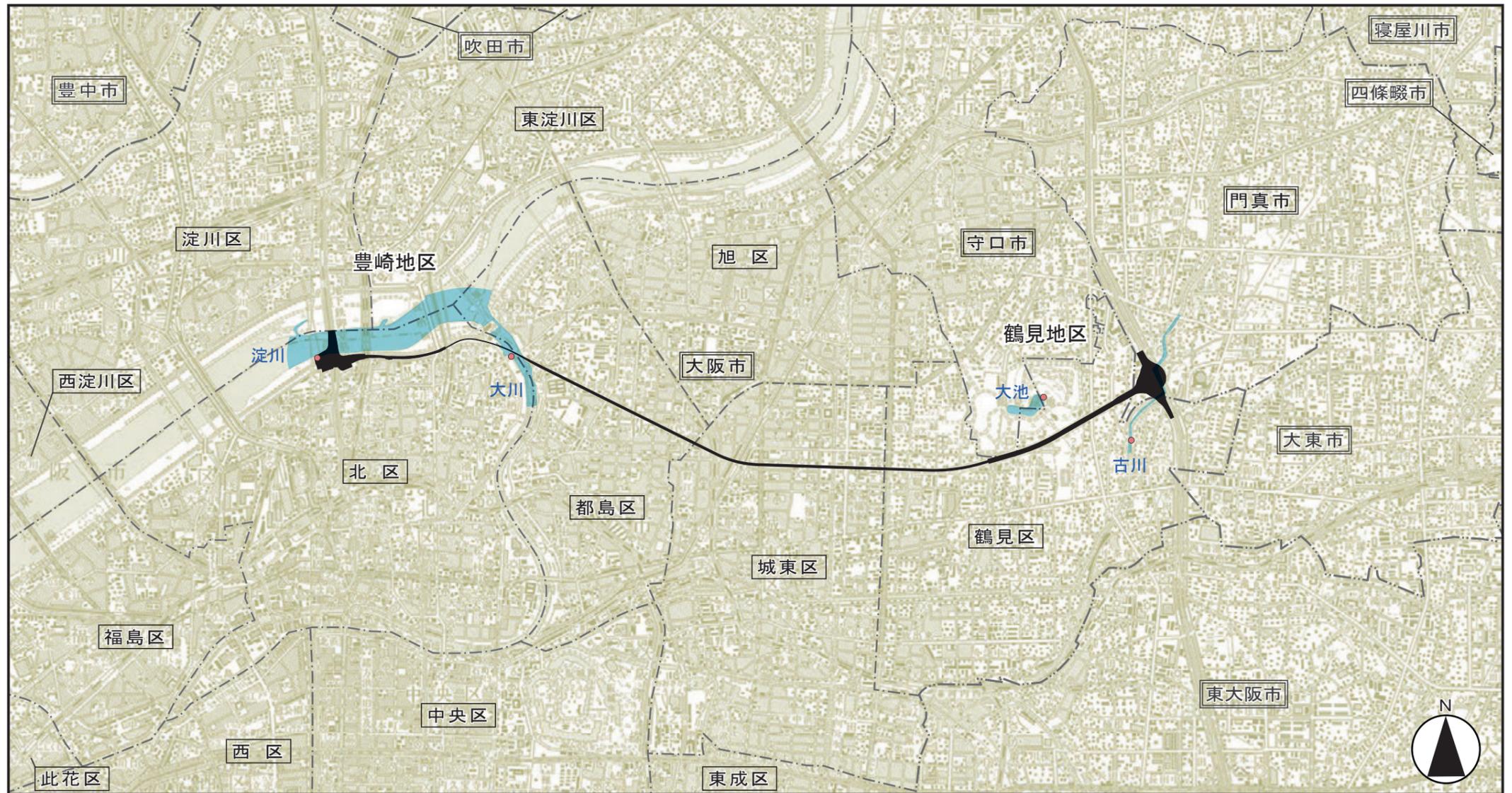


凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	

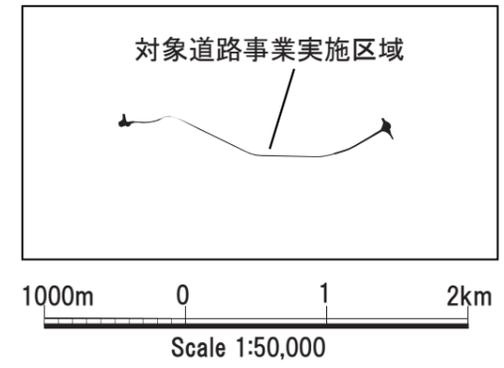


図名

図8-13-8 陸産貝類調査位置図



凡 例		
記号	名 称	備 考
●	定量調査地点	
■	調査対象河川	



図名 図8-13-9 底生動物調査位置図

⑤ 調査期間及び時期

調査期間は、平成24年10月～平成26年9月までとしました。

調査時期等は、春・夏・秋・冬季を基本とし、調査対象となる動物の生態的な特性を考慮し効率よく確認できる時期としました。

猛禽類については、生態的特性から、より詳細な調査が必要であるため、繁殖期、渡り時期及び越冬期等を考慮して2営巣期の調査を実施しました。

各項目の調査時期は、表8-13-5(1)～(2)に示すとおりです。

表8-13-5(1) 調査時期

項目	調査手法	調査実施日
哺乳類	直接観察、 フィールドサイン法	秋季：平成24年10月22～26日、29日 冬季：平成25年1月21～22日 春季：平成25年5月20～22日 夏季：平成25年6月27～28日、7月1日
	トラップによる捕獲	秋季：平成24年10月22～26日 冬季：平成25年1月23～25日 春季：平成25年5月20～22日 夏季：平成25年6月27～28日、7月1～2日
鳥類	直接観察	秋季：平成24年10月15～18日 冬季：平成25年1月23～25日 春季：平成25年5月23～24日 夏季：平成25年7月16～17日 補足：平成26年8月28～29日※
	ラインセンサス法	秋季：平成24年10月16、17日 冬季：平成25年1月23～25日 春季：平成25年5月23～24日 夏季：平成25年7月16～17日
	定点観察法	秋季：平成24年10月16、18日 冬季：平成25年1月23～25日 春季：平成25年5月23～24日 夏季：平成25年7月16～17日
猛禽類	定点観察法	【1 営巣期目】 2月：平成25年2月20～22日 3月：平成25年3月12～14日 4月：平成25年4月22～24日 5月：平成25年5月13～15日 6月：平成25年6月18～20日 7月：平成25年7月16～17日 【2 営巣期目】 1月：平成26年1月21日～1月23日 2月：平成26年2月12日～2月13日、27日 3月：平成26年3月3日～3月4日、6日 4月：平成26年4月21日～4月23日 5月：平成26年5月19日～21日 6月：平成26年6月3日、4日、6日、16日～18日

※「大阪府レッドリスト2014」（平成26年3月、大阪府）の公表に伴い、新たに重要な種とした種を対象とした補足調査。

表 8-13-5(2) 調査時期

項目	調査手法	調査実施日
爬虫類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～26、29 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
	トラップによる捕獲	秋季：平成 24 年 10 月 22～25 日 春季：平成 25 年 5 月 20～21 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日
両生類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～26、29 日 春季：平成 25 年 5 月 20～22 日 夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
魚類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 10～12 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 夏季：平成 25 年 7 月 10～12 日
	トラップによる捕獲	秋季：平成 24 年 10 月 10～12 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 夏季：平成 25 年 7 月 10～12 日
昆虫類 ・クモ類	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 22～24 日 春季：平成 25 年 5 月 16～17 日 夏季：平成 25 年 7 月 22～23 日 補足：平成 26 年 8 月 25～26 日 ^{※1}
	ライトトラップ法	秋季：平成 24 年 10 月 22、24 日 春季：平成 25 年 5 月 16 日 夏季：平成 25 年 7 月 22 日
	ベイトトラップ法	秋季：平成 24 年 10 月 22～23 日 春季：平成 25 年 5 月 16～17 日 夏季：平成 25 年 7 月 22～23 日
陸産貝類	直接観察及び採取	夏季：平成 25 年 6 月 27～28 日、7 月 1 日
底生動物	直接観察及び採取	冬季：平成 25 年 2 月 25～26 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日 補足：平成 26 年 1 月 30 日～1 月 31 日 ^{※2} 補足：平成 26 年 9 月 16 日 ^{※1}
	コドラート法	冬季：平成 25 年 2 月 25～26 日 春季：平成 25 年 5 月 8～10 日、5 月 20 日

※1 「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）の公表に伴い、新たに重要な種とした種を対象とした補足調査。

※2 重要な種の分布状況の詳細把握のため、実施した補足調査。

(2) 調査の結果

現地調査結果の概要は、表 8-13-6 に示すとおりです。

なお、猛禽類の現地調査結果については鳥類として、底生動物の現地調査結果については水生昆虫類を昆虫類、水生昆虫類以外を底生動物として整理しました。

表 8-13-6 現地調査結果の概要

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	4目 6科 7種	カヤネズミ、キツネ、イタチ属の一種の3種
鳥類	13目 34科111種	カンムリカイツブリ、ササゴイ、オシドリ、ミサゴ、ハヤブサ、クイナ、コチドリ、ハマシギ、ウミネコ、コミミズク、カワセミ、ヒバリ、ビンズイ、ヒレンジャク、コルリ、オオヨシキリ、キビタキ、サンコウチョウ、ホオアカ等の56種
爬虫類	2目 7科 8種	ニホンスッポンの1種
両生類	1目 2科 4種	トノサマガエルの1種
魚類	7目 14科 35種	ニホンウナギ、シロヒレタビラ、ワタカ、ハス、アユ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ、旧トウヨシノボリの8種
昆虫類	17目174科620種	キイトトンボ、アオサナエ、コフキトンボ、ウスヒラタゴキブリ、ミスジチョウ、ウスアオリング、ハマベミズギワゴミムシ、スジヒラタガムシ、ドウガネブイブイ、ジュウクホシテントウ、モンズズメバチ、キアシハナダカバチモドキ、キバラハキリバチ等の20種
クモ類	1目 17科 58種	キシノウエトタテグモ、コガネグモ、カコウコモリグモ、テジロハリゲコモリグモの4種
陸産貝類	1目 3科 5種	重要な陸産貝類は確認されなかった
底生動物	10綱23目 39科 69種	ハベカワニナ、クロダカワニナ、カワグチツボ、カワザンショウガイ、ウミゴマツボ、ミズゴマツボ、ドブガイ、トンガリササノハガイ、イシガイ、ヤマトシジミ、ヨツバコツブムシの11種

① 哺乳類

a) 哺乳類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-7 に示すとおり、4 目 6 科 7 種の哺乳類が確認されました。

確認された哺乳類は、コウベモグラ、アブラコウモリ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ヌートリア、キツネ、チョウセンイタチでした。

表 8-13-7 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				H24	H25		
				秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ目	モグラ科	コウベモグラ		○		
			モグラ属の一種	○			
2	コウモリ目	ヒコウモリ科	アブラコウモリ			○	
		-	コウモリ目の一種	○			
3	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	○	○	○	○
ハツカネズミ				○	○	○	
5		ヌートリア科	ヌートリア	○	○	○	○
6	ネコ目	イヌ科	キツネ		○		
7		イタチ科	チョウセンイタチ			○	
			イタチ属の一種	○	○	○	○
合計	4 目	6 科	7 種	5 種	6 種	5 種	4 種

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な哺乳類

現地調査で確認された種のうち、重要な哺乳類はカヤネズミ、キツネ、イタチ属の一種の 3 種でした。

現地調査で確認された重要な哺乳類を表 8-13-8 に示します。

表 8-13-8 現地調査により確認された重要な哺乳類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ				準絶
2	ネコ目	イヌ科	キツネ				I 類
3		イタチ科	イタチ属の一種				II 類*
合計	2 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	3 種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表 8-13-3 に示すとおりです。

※イタチのランクを示しています。

② 鳥類

a) 鳥類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-9(1)～(3)に示すとおり、13 目 34 科 111 種*の鳥類が確認されました。

確認された鳥類は、カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、オシドリ、ミサゴ、キジ、クイナ、コチドリ、ドバト、コミミズク、カワセミ、コゲラ、ヒバリ等でした。

※ 猛禽類の現地調査結果を含む

表 8-13-9(1) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期								
				H24	H25		H26					
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	○	○	○		○	○	○		
2			カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○			
3	ペリカン目	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○	○		
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ	○		○	○	○				
5			ササゴイ			○	○		○	○		
6			アマサギ			○			○	○		
7			ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○		
8			チュウサギ			○			○	○		
9			コサギ	○	○	○	○	○	○	○		
10			アオサギ	○	○	○	○	○	○	○		
11			カモ目	カモ科	オシドリ						○	
12					マガモ	○	○	○	○	○	○	
					アヒル※	○		○	○			
13	カルガモ	○			○	○	○	○	○	○		
14	コガモ	○			○	○		○	○			
15	ヨシガモ				○	○		○	○			
16	オカヨシガモ				○			○	○			
17	ヒトリガモ	○			○	○		○	○			
18	アメリカヒトリ							○				
19	オナガガモ	○			○	○		○	○			
20	ハシビロガモ					○						
21	ホシハジロ				○	○	○	○	○	○		
22	キンクロハジロ				○	○	○	○	○	○		
23	スズガモ				○			○				
24	ホオジロガモ				○			○				
25	ミコアイサ		○									
26	カモ目	カモ科	ミサゴ	○	○	○		○	○			
27			トビ			○		○	○	○		
28			オオタカ	○	○	○		○	○			
29			ハイタカ		○			○	○			
30			ノスリ					○	○			
31			チュウヒ		○	○		○	○			
32			ハヤブサ科	ハヤブサ	○	○	○	○	○	○	○	
33				チョウゲンボウ	○	○	○	○	○	○	○	
34	キジ目	キジ科	キジ					○				

※ アヒルはマガモの品種であり、種数をカウントしていません。

注) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

表 8-13-9(2) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期							
				H24	H25			H26			
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季	
35	ツル目	クイ科	クイ						○		
36			ヒクイ			○					
37			バン	○	○	○		○	○		
38			オオバン		○	○		○	○		
39	チドリ目	チドリ科	コチドリ			○			○		
40			カウチドリ				○				
41			シロチドリ		○	○		○	○		
42			ケリ		○	○	○	○	○	○	
43		シギ科	ハマシギ			○					
44			ツルシギ	○							
45			アオアシギ			○					
46			キアシギ			○			○		
47			イソギ	○	○	○	○	○	○	○	
48			ソリハシギ			○					
49			チュウシヤクシギ			○					
50			カモ科	ユリカモ	○	○	○		○	○	
51		セグロカモ		○	○	○		○	○	○	
52		オオセグロカモ			○	○		○			
53		カモ			○	○		○	○		
54		ウミネ			○		○				
55		コアジサシ				○	○		○	○	
56		ハト目	ハト科	トハト	○	○	○	○	○	○	○
57				キジハト	○	○	○	○	○	○	○
58				アハト					○	○	
59		フクロウ目	フクロウ科	コミズク		○					
60	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○	○	○	○		○		
61	キツツキ目	キツツキ科	コケラ	○	○	○	○	○	○		
62	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	
63		ツハメ科	ツハメ			○	○		○	○	
64		セキレイ科	キセキレイ	○							
65			ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	
66			セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	
67			ヒンズイ		○						
68		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	
69		モズ科	モズ	○	○	○		○	○		
70		レンジャク科	ヒレンジャク		○						
71		ツグミ科	コルリ							○	
72			ルビタキ		○						
73			ジョウビタキ		○	○		○	○		
74			ノビタキ	○							
75			イソヒヨドリ	○	○			○	○	○	
76			シロハラ		○	○		○	○		
77	ツグミ			○	○		○	○			

注) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

表 8-13-9(3) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期						
				H24	H25		H26			
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	春季	夏季
78	(スズメ目)	ウグイス科	ウグイス	○	○	○		○	○	
79			オオヨシキリ			○	○		○	○
80			ホトツムシクイ	○		○				
81			エゾムシクイ	○						○
82			センダイムシクイ	○						○
83			キクイタダキ		○					
84			セッカ		○	○	○	○	○	○
85			ヒタキ科	キビタキ	○		○			
86		オオルリ		○		○			○	
87		サメビタキ		○						
88		エゾビタキ		○						○
89	コマビタキ	○								
90	カサキヒタキ科	サンコウチョウ			○					
91	エナガ科	エナガ	○	○	○		○		○	
92	ツリスカラ科	ツリスカラ		○						
93	シジュウカラ科	ヒガラ		○						
94		ヤマガラ	○	○					○	
95		シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	
96	メジロ科	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	
97	ホシジロ科	ホシジロ		○	○			○	○	
98		ホオアカ		○						
99		カシラダカ							○	
100		アオジ		○	○			○	○	
101		オオジュリン		○	○			○	○	
102	アトリ科	カラヒリ	○	○	○	○	○	○	○	
103		マヒワ		○						
104		ヘビマシコ		○						
105		イカル			○					
106		シメ		○						
107	ハタオリドリ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	
108	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	
109		ハッカチョウ	○	○	○	○	○	○	○	
110	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	
111		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	
合計	13目	34科	111種	52種	73種	75種	37種	63種	69種	44種

注) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

b) 重要な鳥類

現地調査で確認された種のうち、重要な鳥類はカンムリカイツブリ、ササゴイ等 56 種でした。

現地調査で確認された重要な鳥類を表 8-13-10(1)～(2)に示します。

表 8-13-10 (1) 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ					繁殖3
2	コウノトリ目	サギ科	ササゴイ					繁殖3
3			アマサギ				II類	
4			チュウサギ			NT		繁殖3
5	カモ目	カモ科	オシドリ			DD		繁殖3
6			マカモ					繁殖3
7			ヨシガモ					越冬3
8			アメリカヒドリ					越冬3
9			ホシロガモ					越冬3
10			ミコアイサ					越冬3
11	カ目	カ科	ミサコ			NT		繁殖2
12			オオカ		国内	NT	準絶	繁殖3
13			ハイカ			NT		繁殖4
14			ノスリ				準絶	越冬3
15			チュウヒ			EN	I類	繁殖1
16		ハヤブサ科	ハヤブサ		国内	VU		繁殖3
17			チョウゲンボウ					越冬3
18	ツル目	クイ科	クイ				準絶	越冬2
19			ヒクイ			NT	II類	繁殖2
20			オオバン					繁殖3
21	チドリ目	チドリ科	コチドリ				準絶	繁殖3
22			イカルチドリ				II類	繁殖3
23			シロチドリ			VU	II類	繁殖3
24			ケリ			DD	準絶	
25		シギ科	ハマシギ			NT		越冬3
26			ツルシギ			VU	II類	通過3
27			アオアシシギ				II類	通過3
28			キアシシギ				準絶	通過3
29			イソシギ				準絶	繁殖2
30			ソリハシギ				II類	通過3
31			チュウシャクシギ				準絶	通過3
32		カモ科	ウミネコ					繁殖4
33			コアジサシ		国際	VU	I類	繁殖2
34		フクロウ目	フクロウ科	コミスク				II類
35	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ					繁殖3
36	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ				準絶	
37		セキレイ科	ヒンスズイ					繁殖4
38		レンジャク科	ヒレンジャク					越冬4

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

表 8-13-10(2) 現地調査により確認された重要な鳥類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準				
				①	②	③	④	⑤
39	(スズメ目)	ツグミ科	コリ					繁殖3
40			ルリビタキ					繁殖3
41			ノビタキ					繁殖3
42		ウグイス科	オオヨシキリ				準絶	繁殖3
43			メボソムシクイ					繁殖3
44			エゾムシクイ					繁殖3
45			センダムシクイ				準絶	繁殖3
46			キクイタタキ					越冬3
47			セッカ				準絶	
48		ヒタキ科	キビタキ					繁殖3
49			オオルリ					繁殖3
50			エゾビタキ					通過3
51			コサメビタキ				Ⅱ類	
52		カササギヒタキ科	サンコウチョウ					繁殖3
53		ホオジロ科	ホオアカ				準絶	繁殖3
54			カシラダカ				準絶	
55			アオジ					繁殖3
56			オオジョウリン				準絶	
合計	9目	19科	56種	0種	3種	13種	26種	49種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

③ 爬虫類

a) 爬虫類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-11 に示すとおり、2 目 7 科 8 種の爬虫類が確認されました。

確認された爬虫類は、クサガメ、アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウでした。

表 8-13-11 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	カメ目	イガメ科	クサガメ	○	○	○
2		ヌマガメ科	アカミミガメ	○	○	○
3		スッポン科	ニホンスッポン		○	○
		—	カメ目の一種	○		
4	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	○	○	○
5		トカゲ科	ニホントカゲ		○	○
6		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○	○
7		ナミヘビ科	シマヘビ		○	○
8			アオダイショウ			○
			ナミヘビ科の一種	○		
合計	2 目	7 科	8 種	5 種	7 種	8 種

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な爬虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な爬虫類は、ニホンスッポンの 1 種です。

現地調査で確認された重要な爬虫類を表 8-13-12 に示します。

表 8-13-12 現地調査により確認された重要な爬虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	カメ目	スッポン科	ニホンスッポン			DD	
合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

④ 両生類

a) 両生類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-13 に示すとおり、1 目 2 科 4 種の両生類が確認されました。

確認された両生類は、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ヌマガエルでした。

表 8-13-13 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル		○	○
2		アカガエル科	トノサマガエル	○	○	○
3			ウシガエル	○	○	○
4			ヌマガエル	○	○	○
合計	1 目	2 科	4 種	3 種	4 種	4 種

注) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

b) 重要な両生類

現地調査で確認された種のうち、重要な両生類はトノサマガエルの1種でした。

現地調査で確認された重要な両生類を表 8-13-14 に示します。

表 8-13-14 現地調査により確認された重要な両生類

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル			NT	準絶
合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種

注) 選定基準: 選定基準(選定基準番号)及びランクは表8-13-3に示しています。

⑤ 魚類

a) 魚類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-15(1)～(2)に示すとおり、7 目 14 科 35 種の魚類が確認されました。

確認された魚類は、ニホンウナギ、コノシロ、オイカワ、アユ、カダヤシ、ミナミメダカ、スズキ、コトヒキ、ブルーギル、ヒイラギ、クロダイ、ボラ、カワアナゴ等でした。

表 8-13-15(1) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		○	
2	ニシ目	ニシ科	コノシロ		○	
3	コイ目	コイ科	コイ		○	○
			キンギョ [※]		○	
4			ギンブナ	○		
			フナ属の一種		○	
5			シロヒレタビラ			○
6			ワカ			○
7			ハス	○		
8			オイカワ	○	○	○
9			モツゴ	○	○	○
10			ヒ ^レ ワ ^カ イ			○
11			カマツカ			○
12			コウライニコイ	○	○	
			ニコイ属の一種			○
13	コウライモロコ	○	○	○		
14	サケ目	アユ科	アユ		○	
15	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○	○	○
16	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	○	○	○
17	スズキ目	スズキ科	スズキ	○	○	○
18		シマイサキ科	コトヒキ	○		○
19			シマイサキ	○		○
20		サンフィッシュ科	ブルーギル	○	○	○
21			オクチバス		○	○
22		ヒイラギ科	ヒイラギ		○	
23		タイ科	クロダイ		○	○
24		ボラ科	ボラ	○	○	○
25			メダ	○		
26		カワアナゴ科	カワアナゴ		○	○
27		ハセ科	ウロハセ	○	○	○
28			マハセ	○	○	○
29			ヒメハセ		○	
30			ヒナハセ	○	○	
31		ア ^ハ ハセ	○	○	○	

※ キンギョはフナの品種であり、種数をカウントしていません。

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

表 8-13-15(2) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				H24	H25	
				秋季	春季	夏季
32	(スズキ目)	(ハゼ科)	ゴクラクハゼ		○	
33			シマヒレヨシノボリ	○	○	
			旧トウヨシノボリ			○
34			ヌマチチブ		○	
35			チチブ	○	○	○
			チチブ属の一種		○	
合計	7 目	14 科	35 種	20 種	27 種	24 種

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

b) 重要な魚類

現地調査で確認された種のうち、重要な魚類は、ニホンウナギ、シロヒレタビラ、ワタカ、ハス、アユ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ、旧トウヨシノボリの8種です。

現地調査で確認された重要な魚類を表 8-13-16 に示します。

表 8-13-16 現地調査により確認された重要な魚類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ			EN	Ⅱ類
2	コイ目	コイ科	シロヒレタビラ			EN	Ⅰ類
3			ワタカ			CR	Ⅰ類
4			ハス			VU	準絶
5	サケ目	アユ科	アユ				準絶
6	メダカ目	メダカ科	ミナミメダカ			VU	Ⅱ類
7	スズキ目	ハゼ科	シマヒレヨシノボリ			NT	準絶
8			旧トウヨシノボリ				不足*
合計	5 目	5 科	8 種	0 種	0 種	6 種	8 種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示しています。

*トウヨシノボリのランクを示しています。未熟個体のため同定が困難であったため、型不明の旧トウヨシノボリとしました。

⑥ 昆虫類

a) 昆虫類の生息状況

現地調査の結果、表8-13-17に示すとおり、17目174科620種の昆虫類*が確認されました。

確認された昆虫類は、シリナガマダラカゲロウ、アオモンイトトンボ、モリチャバネゴキブリ、ハラビロカマキリ、ハマベハサミムシ、ツユムシ、ヒメチャタテ、アワダチソウグンバイ、ヨツボシクサカゲロウ、コガタシマトビケラ、ツバメシジミ、ルリミズアブ、アトワアオゴムシ、ウメマツオオアリ等でした。

※底生動物の現地調査で確認された昆虫類を含む

表 8-13-17 昆虫類確認種数一覧

No.	目名	科数	種数	調査時期						
				H24	H25			H26		
				秋季	冬季	春季	夏季	冬季	夏季	秋季
1	トビムシ目	2	2	2						
2	カゲロウ目	4	4		4	1				
3	トンボ目	7	29	4	5	16	16		13	2
4	ゴキブリ目	2	4	3		1	1			
5	カマキリ目	1	4	3			1			
6	シロアリ目	1	1			1				
7	ハサミムシ目	2	3	3		1	2			
8	カワゲラ目	2	2		2					
9	ハツタ目	12	42	37		4	18		10	
10	チャタテムシ目	2	2	1			1			
11	カメムシ目	31	110	51	1	49	63	1	11	1
12	アミカゲロウ目	2	6	1		5	1			
13	トビケラ目	2	3		1	2			1	
14	チョウ目	20	72	38		29	30		17	
15	ハエ目	27	70	35	18	30	12		2	
16	コウチュウ目	35	189	60		108	89		6	
17	ハチ目	22	77	36		33	46		8	
合計	17目	174科	620種	115科 274種	14科 31種	99科 280種	103科 280種	1科 1種	34科 68種	3科 3種

注1) 分類(目名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

b) 重要な昆虫類

現地調査で確認された種のうち、重要な昆虫類は、キイトンボ、ホンサナエ等 20 種です。
 現地調査で確認された重要な昆虫類を表 8-13-18 に示します。

表 8-13-18 現地調査により確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	キイトンボ				準絶
2			セスジイトンボ				準絶
3		サナエトンボ科	アオサナエ				準絶
4			ホンサナエ				II類
5			ウチワヤンマ				準絶
6			オオサカサナエ			VU	II類
7		トンボ科	コフキトンボ				準絶
8			ヨツボシトンボ				準絶
9			アキアカネ				準絶
10			ノシメトンボ				準絶
11	コキブリ目	チャハネコキブリ科	ウスヒラタコキブリ				不足
12	チョウ目(鱗翅目)	タテハチョウ科	ミスジチョウ				準絶
13		コバガ科	ウスアオリンガ				準絶
14	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	ハマハミスギワコミムシ				準絶
15		ガムシ科	スジヒラタガムシ			NT	準絶
16		コガネムシ科	トウガネブイ				準絶
17		テントウムシ科	ジユウホシテントウ				準絶
18	ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	モンスズメバチ			DD	
19		トロハチモドキ科	キアシハナダカハチモドキ			VU	
20		ハキリバチ科	キハラハキリバチ			NT	
合計	5目	13科	20種	0種	0種	5種	17種

注) 選定基準：選定基準(選定基準番号)及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑦ クモ類

a) クモ類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-19(1)～(2)に示すとおり、1 目 17 科 58 種のクモ類が確認されました。

確認されたクモ類は、キシノウエトタテグモ、ニホンヒメグモ、ニセアカムネグモ、チュウガタシロカネグモ、コガネグモ、ハラクロコモリグモ、アズマキシダグモ、ササグモ、シボグモ、コクサグモ、アシハグモ、シモフリヤチグモ、カバキコマチグモ、ヒゲナガツヤグモ、キンイロエビグモ、ハナグモ、ヤサアリグモ等でした。

表 8-13-19(1) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				H24	H25		H26	
				秋季	春季	夏季	夏季	
1	クモ目	トタテグモ科	キシノウエトタテグモ	○				
2		ヒメグモ科	ニホンヒメグモ			○		
3			オオヒメグモ		○			
4			マダラヒメグモ		○			
5			サラグモ科	ニセアカムネグモ		○		
6		アシナグモ科	チュウガタシロカネグモ		○	○		
7			ジヨロウグモ	○		○		
8			ヒメアシナグモ			○		
9			トカリアシナグモ	○	○			
10			ヤサカタアシナグモ		○	○		
11			ヒカリアシナグモ		○	○		
12			アシナグモ		○	○		
13			ウロコアシナグモ		○	○		
			Tetragnatha 属の一種	○				
			アシナグモ科の一種	○				
14			コカネグモ科	Araneus 属の一種	○			
15				コカネグモ		○		
16				ナカコカネグモ				○
17				ヨツボシヨウシヨウグモ		○	○	
18		コカネグモタマシ		○				
19		セキグチコカネグモタマシ				○		
		コカネグモ科の一種		○				
20		コモリグモ科	ハラクロコモリグモ	○	○	○		
21			ウツキコモリグモ		○	○	○	
22			カコウコモリグモ		○			
23			キクツキコモリグモ		○			
24			テジロハリケコモリグモ		○			
25			アライトコモリグモ	○				
			コモリグモ科の一種	○				
26			キシダグモ科	アズマキシダグモ	○			
27	ササグモ科	ササグモ	○		○			
28	シボグモ科	シボグモ		○				
29	クサグモ科	クサグモ		○				
30		コクサグモ			○			

注) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

表 8-13-19(2) クモ類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				H24	H25		H26	
				秋季	春季	夏季	夏季	
31	(クモ目)	ハグモ科	アシハグモ		○			
32		カケジグモ科	シモリヤチグモ	○	○			
33		フクログモ科	カバキコマチグモ	○				
34			コフクログモ		○	○		
35			マダラフクログモ		○			
36			ハマキフクログモ		○	○		
37			カギフクログモ			○		
			フクログモ科の一種	○				
38			ワシグモ科	ヒゲナカツヤグモ		○		
39			エビグモ科	キンイロエビグモ		○		
40		ヤトカリグモ			○			
41		カニグモ科	コハナグモ	○	○			
42			ハナグモ	○	○	○		
43			アズチグモ			○		
44			トラフカニグモ		○			
45			アスマカニグモ			○		
46			ヨコフカニグモ			○		
			Xysticus 属の一種	○				
			カニグモ科の一種	○				
47			ハエトリグモ科	ネコハエトリ	○	○		
48				マミシロハエトリ	○	○		
49		チクニハエトリ			○	○		
50		オスクロハエトリ		○	○	○		
51		ヤハスハエトリ		○	○	○		
52		ヤサアリグモ		○	○	○		
53		アリグモ		○				
54		メカネアサヒハエトリ				○		
55		ミスジハエトリ			○			
56	イナヅマハエトリ			○				
57	アオビハエトリ			○				
58	シラホシコグチャハエトリ				○			
	ハエトリグモ科の一種	○						
合計	1 目	17 科	58 種	20 種	38 種	27 種	2 種	

注1) 同一種の可能性がある種は、種数をカウントしていません。

注2) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しています。

b) 重要なクモ類

現地調査で確認された種のうち、重要なクモ類は、キシノウエトタテグモ、コガネグモ、カコウコモリグモ、テジロハリゲコモリグモの4種です。

現地調査で確認された重要なクモ類を表 8-13-20 に示します。

表 8-13-20 現地調査により確認された重要なクモ類

No.	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
				①	②	③	④
1	クモ目	トタテグモ科	キシノウエトタテグモ			NT	準絶
2		コガネグモ科	コガネグモ				準絶
3		コモリグモ科	カコウコモリグモ				準絶
4			テジロハリゲコモリグモ				Ⅱ類
合計	1 目	3 科	4 種	0 種	0 種	1 種	4 種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑧ 陸産貝類

a) 陸産貝類の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-21 に示すとおり、1 目 3 科 5 種の陸産貝類が確認されました。

確認された陸産貝類は、ミジンマイマイ、チャコウラナメクジ、ウスカワマイマイ、オナジマイマイ、ナミマイマイでした。

表 8-13-21 陸産貝類確認種一覧

No.	綱名	目名	科名	種名	調査時期
					H25
					夏季
1	マカイ綱	マイマイ目	ミジンマイマイ科	ミジンマイマイ	○
2			コウラナメクジ科	チャコウラナメクジ	○
3			オナジマイマイ科	ウスカワマイマイ	○
4				オナジマイマイ	○
5				ナミマイマイ	○
合計	1 綱	1 目	3 科	5 種	5 種

注) 分類（目名・科名・種）は、「日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—（無脊椎動物編Ⅲ）」（環境庁、平成10年）に準拠しています。

b) 重要な陸産貝類

現地調査で確認された種のうち、重要な陸産貝類に該当する種はありませんでした。

⑨ 底生動物

a) 底生動物の生息状況

現地調査の結果、表 8-13-22 に示すとおり、10 綱 23 目 39 科 69 種*が確認されました。

確認された底生動物は、アメリカナミウズムシ、イシマキガイ、ヒメタニシ、ハベカワニナ、サカマキガイ、カワヒバリガイ、イシガイ、イガイダマシ、アシナガゴカイ、ヤマトスピオ、エラミミズ、ヌマビル、タテジマフジツボ、キスイタナイス、フロリダマミズヨコエビ、ミズムシ、テナガエビ等でした。 ※底生動物の現地調査で確認された昆虫類を除く

表 8-13-22 底生動物確認種数一覧

No.	綱名	目数	科数	種数	調査時期			
					H25		H26	
					冬季	春季	冬季	秋季
1	普通海綿綱	1	1	1		1		
2	渦虫綱	1	1	2	1	1		
3	有針綱	1	1	1	1			
4	腹足綱	4	9	13	7	11	5	2
5	二枚貝綱	3	4	9	7	8	3	2
6	ゴカイ綱	3	3	6	5	5	4	2
7	ミズシロ綱	3	3	11	5	10	1	
8	ヒル綱	2	2	4	3	4		
9	顎脚綱	1	1	3	3	3	3	2
10	軟甲綱	4	14	19	13	17	6	6
合計	10 綱	23 目	39 科	69 種	20 目 30 科 45 種	22 目 36 科 60 種	11 目 17 科 22 種	10 目 12 科 14 種

注1) 分類（目名・科名・種名）は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」（国土交通省、平成27年）に準拠しています。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

b) 重要な底生動物

現地調査で確認された種のうち、重要な底生動物は、ハベカワニナ、クロダカワニナ等 11 種です。

現地調査で確認された重要な底生動物を表 8-13-23 に示します。

表 8-13-23 現地調査により確認された重要な底生動物（昆虫類を除く）

No.	綱名	目名	科名	種名	重要種の選定基準			
					①	②	③	④
1	腹足綱	盤足目	カニナ科	ハベカワニナ				準絶
2				クロダカワニナ			NT	II類
3			カクチツボ科	カクチツボ			NT	準絶
4			カザンショウガイ科	カザンショウガイ				準絶
5			ミスゴマツボ科	ウミゴマツボ			NT	準絶
6				ミスゴマツボ			VU	II類
7	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	トブガイ				II類
8				トカリスサハガイ			NT	II類
9				イガイ				準絶
10		マルダレガイ目	シジミ科	ヤマトシジミ			NT	準絶
11	軟甲綱	ワラジムシ目	コツブムシ科	ヨツバコツブムシ				準絶
合計	3 綱	4 目	7 科	11 種	0 種	0 種	6 種	11 種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-13-3に示すとおりです。

⑩ 注目すべき生息地の状況

既存資料調査の結果、調査地域では表 8-13-24 に示す、「コアジサシの集団繁殖地」（「第 4 回 自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」（平成 7 年、環境庁））、「淀川（西中島）」（「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」（平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会））が記録されています（分布は図 4-1-12 を参照）。

現地調査の結果、「コアジサシの集団繁殖地」周辺においてコアジサシの飛翔等は確認されたものの、本種の繁殖は確認されませんでした。

また、調査地域内における「淀川（西中島）」周辺では、ウチワヤンマ、コフキトンボ等の昆虫、ヤマトシジミ等の底生動物が確認されましたが、ヒヌマイトトンボは確認されませんでした。

表 8-13-24 注目すべき生息地の状況

番号	注目すべき生息地	所在	概要
A	コアジサシの集団繁殖地	大阪市東淀川区	調査年月日：平成 4 年 6 月 18 日 環境種類：中州 面積：500m ² 地形：平地 個体数：10～19 羽
B	淀川（西中島）	大阪市淀川区	淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。

注) 分布位置は図4-1-12参照。

2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測手法

動物の重要な種及び注目すべき生息地について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、道路構造別の道路の存在位置、換気塔の存在位置と重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲から、生息環境が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在による対象種の生態を踏まえた生息環境の質的変化（移動経路の分断、工事作業、濁水※、地下水位の変化等）の程度についても把握しました。

次に、それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を、科学的知見を参考に定性的に予測しました。

予測手順を図 8-13-10 に示します。

※濁水による環境変化については、以下の工事計画を基に予測を行いました。

- ・河川内における橋梁基礎工事においては、改変面積を極力抑え、止水性の高い仮締切工法を採用するとともに、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行います。
- ・土工事及びトンネル工事（開削工法）に伴う裸地等の表土から降雨等により発生する濁水については、必要に応じて裸地の整形、仮設沈砂池の設置、モニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。
- ・シールド工法によるトンネル工事に伴って発生する濁水及び湧水については、濁水処理施設を設置し、必要に応じてモニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。

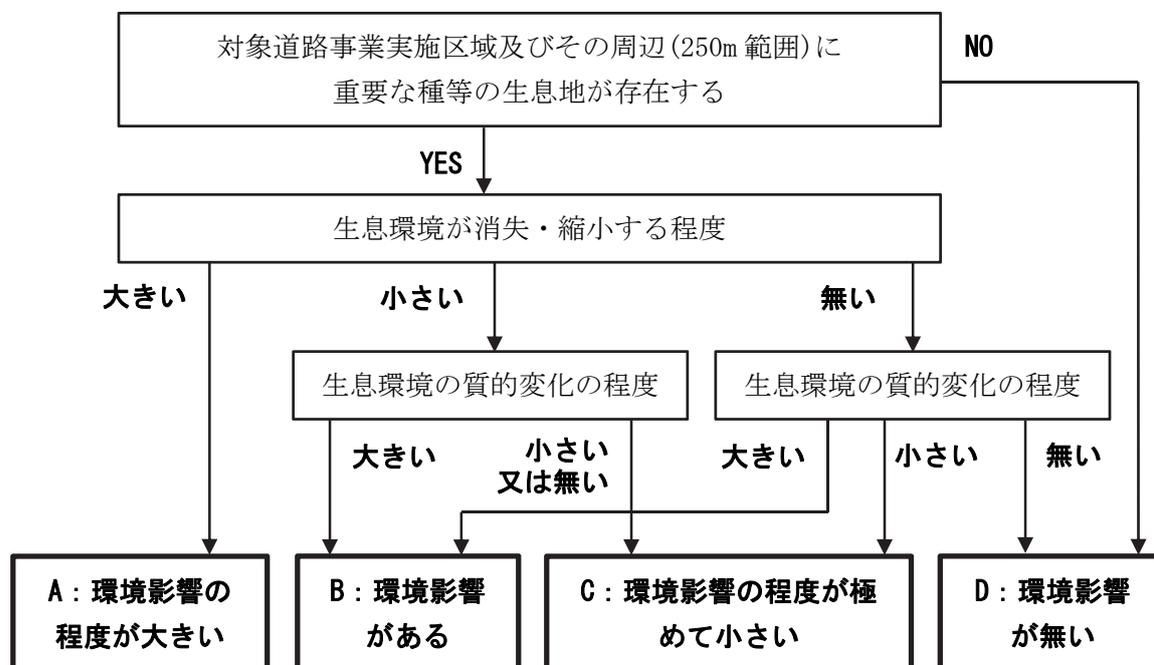


図 8-13-10 動物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて、重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響が考えられる地域としました。

地表部が改変され、直接的な影響を受ける可能性のある地域として「対象道路事業実施区域内^{※1}」を、また工事作業による間接的な影響を受ける可能性のある地域、生息域が分断される可能性のある地域として、「対象道路事業実施区域外^{※2}」を予測地域としました。

※1 対象道路事業実施区域内 : 直接改変を受ける対象道路事業実施区域内（工事中は工事施工ヤード及び工事用道路等の設置を含む範囲）。

※2 対象道路事業実施区域外 : 対象道路事業実施区域端から250mの範囲及び250m以遠に区分。

③ 予測の対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び動物の生態的特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備、開削工事、橋梁部の基礎工事等、現状の土地を改変する段階からの工事实施時期、並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種の選定

予測対象種は、現地調査により対象道路事業実施区域及びその周辺で生息が確認された重要な種及び注目すべき生息地を選定しました。

予測対象とした重要な種は表 8-13-25(1)～(3)に示すとおりで、哺乳類は 3 種、鳥類は 56 種、爬虫類は 1 種、両生類は 1 種、魚類は 8 種、昆虫類は 20 種、クモ類は 4 種、底生動物は 11 種です。

また、注目すべき生息地として、表 8-13-26 に示すコアジサシの集団繁殖地、淀川（西中島）を予測対象としました。

表 8-13-25(1) 予測対象種の選定結果（哺乳類・鳥類）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	哺乳類	カヤネズミ	○	
2		キツネ	○	
3		イタチ属の一種	○	○
1	鳥類	カムリカイツブリ	○	○
2		ササゴイ	○	○
3		アマサギ	○	○
4		チュウサギ	○	
5		オシドリ	○	
6		マガモ	○	○
7		ヨシガモ	○	
8		アメリカヒドリ	○	
9		ホオジロガモ	○	
10		ミコアイサ		○
11		ミサコ	○	○
12		オオカ	○	○
13		ハイカ	○	○
14		ノスリ	○	○
15		チュウビ	○	
16		ハヤブサ	○	○
17		チョウゲンボウ	○	○
18		クイナ	○	
19		ヒクイナ	○	
20		オオバン	○	○
21		コチドリ	○	
22		イカルチドリ	○	
23		シロチドリ	○	
24		ケリ	○	○
25		ハマサギ	○	
26		ツルサギ	○	
27		アオアシサギ	○	
28		キアシサギ	○	

表 8-13-25(2) 予測対象種の選定結果（鳥類・爬虫類・両生類・魚類）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
29	(鳥類)	イソシギ	○	
30		ソリハシギ	○	
31		チュウシャクシギ	○	
32		ウミネコ	○	
33		コアシギ	○	○
34		コミズク	○	
35		カリセミ	○	○
36		ヒバリ	○	
37		ヒンスズイ	○	
38		ヒレンシヤク	○	
39		コルリ		○
40		ルリビタキ		○
41		ノビタキ	○	○
42		オオヨシキリ	○	
43		メボソムシクイ		○
44		エゾムシクイ		○
45		セントアイムシクイ		○
46		キクイタタキ		○
47		セッカ	○	
48		キビタキ	○	○
49		オオルリ		○
50		エゾビタキ	○	○
51		コサメビタキ		○
52		サンコウチョウ		○
53		ホオアカ	○	
54		カシラダカ	○	
55		アオシ	○	○
56		オオシユリン	○	
1	爬虫類	ニホンスッポン		○
1	両生類	トノサマガエル	○	○
1	魚類	ニホンウナギ	○	
2		シロヒレタビラ	○	
3		ワタカ		○
4		ハス	○	
5		アユ	○	
6		ミナミメダカ	○	
7		シマヒレヨシノボリ		○
8		旧トウヨシノボリ		○

表 8-13-25(3) 予測対象種の選定結果（昆虫類・クモ類・底生動物）

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	昆虫類	キイトンボ		○
2		セスジイトンボ		○
3		アオサナエ	○	
4		ホンサナエ	○	
5		ウチワヤンマ	○	○
6		オオサカサナエ	○	
7		コフキトンボ	○	○
8		ヨツボシトンボ		○
9		アキアカネ	○	
10		ノシメトンボ		○
11		ウスヒラタコキブリ	○	
12		ミスジチョウ		○
13		ウスアオリンカ	○	
14		ハマハミズキワゴミムシ	○	
15		スジヒラタカムシ		○
16		トウガネフイブイ		○
17		ジユウクホシテントウ	○	
18		モンズメハチ		○
19		キアシナダカハチモトキ	○	○
20		キハラハキリハチ	○	
1	クモ類	キノウエトタケモ		○
2		コガネクモ	○	
3		カコウコモリクモ	○	
4		テジロハリケコモリクモ	○	
1	底生動物 (昆虫類 以外)	ハハカリニナ	○	
2		クロダカリニナ	○	
3		カワケチツボ	○	
4		カワザンショウガイ	○	
5		ウミコマツボ	○	
6		ミスコマツボ	○	
7		トブガイ	○	
8		トンガリササノガイ	○	
9		イシガイ	○	
10		ヤマトシジミ	○	
11		ヨツバコツブムシ	○	

表 8-13-26 予測対象とした注目すべき生息地

番号	分類	名称	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	注目すべき生息地	コアジサシの集団繁殖地	○	
2		淀川（西中島）	○	

(2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種の予測結果の概要は表 8-13-27(1)～(9)に、注目すべき生息地の予測結果の概要は表 8-13-28 示すとおりです。

生息環境への影響については、図 8-13-10 の手順により、以下のように整理しました。

- A：環境影響の程度が大きい【生息環境が消失・縮小する程度が大きい】
- B：環境影響がある【生息環境の質的变化の程度が大きい】
- C：環境影響の程度が極めて小さい【生息環境の消失・縮小、質的变化の程度が小さい】
- D：環境影響が無い【生息環境の消失・縮小、質的变化が無い】

表 8-13-27(1) 重要な種の予測結果概要（哺乳類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の 変更状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外		変更 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
					区域か ら 250m 以内	区域か ら 250m 以遠				
1	哺乳類	カヤネズミ	河川の乾性草地、湿性草地等	○	○	○	有	トンネル部 (豊崎)	C	C
2		キツネ	河川の湿性草地、市街地等	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
3		イナズメ属の一種	河川の湿性草地、低地の樹林地	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C

表 8-13-27(2) 重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の 変更状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外	変更 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
1	鳥類	カムカイヅツリ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)等		○	無		C	C
2		サコイ	河川の市街地、開放水域(淀川:本流)、低地の樹林地、開放水域(鶴見緑地)等	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
3		アマキ	河川の湿性草地		○	無		D	D
4		チュウキ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		D	D
5		オトリ	河川の開放水域(淀川:本流)		○	無		D	D
6		マガモ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
7		ヨシガモ	河川の市街地、乾性草地		○	無		D	D
8		アメリカトリ	河川の乾性草地		○	無		D	D
9		ホシロギ	河川の開放水域(淀川:本流)		○	無		C	C

表 8-13-27(3) 重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外	改変 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
10	(鳥類)	ミコアサ	低地の開放水域(鶴見緑地)		○	無		D	D
11		ミサコ	河川の開放水域(淀川:本流)、湿性草地等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
12		オオカ	河川の湿性草地、低地の樹林地等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
13		ハイカ	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の樹林地等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
14		ノスリ	河川の乾性草地、低地の樹林地等		○	無		D	D
15		チュウビ	河川の湿性草地、開放水域(淀川:本流)	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
16		ハヤブサ	河川の開放水域(淀川:本流)、市街地	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
17		チョウゲンボウ	河川の市街地、低地の市街地	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
18		クイ	河川の湿性草地		○	無		D	D
19		ヒクイ	河川の湿性草地		○	無		D	D
20		オオバン	河川の開放水域(淀川:本流)、低地の開放水域(鶴見緑地)等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
21		コトドリ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)、乾性草地	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
22		イカルドリ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		D	D
23		シロドリ	河川の市街地、開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		D	D
24		ケリ	河川の乾性草地、市街地等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
25		ハマシギ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		C	C
26		ツルシギ	河川の乾性草地		○	無		D	D
27		アオアシギ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	無		C	C
28		キアシギ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)、開放水域(淀川:本流)		○	無		C	C
29		イシギ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)、開放水域(淀川:本流)等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C

表 8-13-27(4) 重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外	改変 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
30	(鳥類)	ソリハシギ	河川の開放水域(淀川: 干潟・止水域)、市街地		○	無		C	C
31		チュウジャクシギ	河川の開放水域(淀川: 本流)、開放水域(淀 川:干潟・止水域)		○	無		C	C
32		ウミネコ	河川の開放水域(淀川: 本流)	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	D	D
33		コアジサシ	河川の開放水域(淀川: 本流)、低地の開放水 域(鶴見緑地)	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
34		コミスク	河川の開放水域(淀川: 本流)		○	無		D	D
35		カワセミ	河川の開放水域(淀川: 干潟・止水域)、低地の 開放水域(鶴見緑地)		○	無		C	C
36		ヒバリ	河川の乾性草地、湿性 草地		○	無		C	C
37		ヒンズイ	河川の乾性草地		○	無		C	C
38		ヒレンジャク	河川の樹林地等		○	無		D	D
39		コルリ	低地の樹林地		○	無		D	D
40		ルビタキ	低地の樹林地		○	無		D	D
41		ルビタキ	河川の乾性草地、低地 の樹林地	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
42		オオヨシキリ	河川の湿性草地、乾性 草地等	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
43		メボソムシクイ	低地の樹林地		○	無		D	D
44		エゾムシクイ	低地の樹林地、湿性草 地		○	無		D	D
45		センダイムシクイ	低地の樹林地		○	無		D	D
46		キイタダキ	低地の樹林地		○	無		D	D
47		セッカ	河川の湿性草地、乾性 草地等	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
48		キビタキ	低地の樹林地		○	無		D	D
49		オオルリ	低地の樹林地		○	無		D	D
50		エゾビタキ	河川の市街地、低地の 樹林地	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	D	D
51	コサメビタキ	低地の樹林地		○	無		D	D	

表 8-13-27(5) 重要な種の予測結果概要（鳥類）

番号	分類	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外	改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
52	(鳥類)	カンコウチョウ	低地の樹林地		○	無		D	D
53		ホオアカ	河川の湿性草地		○	無		C	C
54		カンラダガカ*	豊崎地区	○		—		C	C
54		アジ*	河川の湿性草地、低地の樹林地等	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C
56		オシジュリン	河川の湿性草地	○	○	有	ランプ部(豊崎)	C	C

※ 現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(6) 重要な種の予測結果概要（爬虫類・両生類・魚類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)			確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外		改変の有無	主な道路構造	工事中	供用後
区域から250m以内	区域から250m以上									
1	爬虫類	ニホンスッポン	低地の開放水域(鶴見緑地)			○	無		D	D
1	両生類	トノサマガエル	河川の乾性草地、低地の樹林地等		○	○	無		D	D
1	魚類	ニホンウナギ	河川の開放水域(淀川:本流、干潟・止水域)		○	○	無		C	C
2		シロヒレタビラ	河川の開放水域(淀川:本流)			○	無		D	D
3		ワカ	河川の開放水域(古川)			○	無		D	D
4		ハス	河川の開放水域(大川)		○		無		D	D
5		アユ*	河川の開放水域(大川)	○			無		D	D
6		ミナメダカ	河川の開放水域(淀川:本流、干潟・止水域)等		○	○	無		C	C
7		シマビレヨシノボリ	低地の開放水域(鶴見緑地)			○	無		D	D
8		旧トウヨシノボリ	低地の開放水域(鶴見緑地)			○	無		D	D

※ 現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係は不明です。

表 8-13-27(7) 重要な種の予測結果概要（昆虫類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業 実施区域との位置関係)			確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外		改変 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
					区域か ら 250m 以内	区域か ら 250m 以遠				
1	昆虫類	キイトンボ	低地の湿性草地		○		無		D	D
2		セシイイトンボ	低地の樹林地			○	無		D	D
3		アオサナエ	河川の開放水域 (淀川：本流)			○	無		D	D
4		ホソサナエ	河川の開放水域 (大川)		○		無		D	D
5		ウチワヤンマ	低地の開放水域 (鶴見緑地)、樹林地			○	無		C	C
6		オオサカサナエ	河川の市街地		○		無		D	D
7		コフキトンボ	河川の市街地、湿 性草地等		○	○	無		C	C
8		ヨツボシトンボ*	鶴見地区		○		—		D	D
9		アキアカネ*	豊崎地区		○		—		C	C
10		ノシメトンボ*	鶴見地区		○		—		D	D
11		ウスヒラタゴキブリ	河川の湿性草地		○		無		C	C
12		ミスジチョウ	低地の樹林地			○	無		D	D
13		ウスアオリンガ	河川の樹林地			○	無		D	D
14		ハマハミズギワゴミシ*	豊崎地区		○		—		C	C
15		スジヒラタガミシ	低地の開放水域 (鶴見緑地)			○	無		D	D
16		トウカネブイブイ	低地の樹林地			○	無		D	D
17		ジユウホシテントウ	河川の湿性草地	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
18		モンスズメバチ	低地の樹林地			○	無		D	D
19		キアシナダカハチモドキ	低地の樹林地、市 街地等		○	○	無		C	C
20		キハラキリバチ	河川の湿性草地		○		無		C	C

※ 現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(8) 重要な種の予測結果概要（クモ類）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業実施区域との位置関係)		確認位置の 改変状況		生息環境 への影響		
				区域内	区域外		改変 の有 無	主な 道路 構造	工事 中	供用 後
					区域か ら 250m 以内	区域か ら 250m 以遠				
1	クモ類	キシノウエタテグモ	低地の樹林地		○		無		D	D
2		コカネグモ※	豊崎地区		○		—		C	C
3		カコウコモリグモ※	豊崎地区		○		—		C	C
4		テジ [△] ロハリグモ [△] コモリグモ [△] ※	豊崎地区		○		—		C	C

※ 現地調査で確認されましたが、詳細な確認位置が不明である種を示し、対象道路事業実施区域との位置関係、改変状況は不明です。

表 8-13-27(9) 重要な種の予測結果概要（底生動物）

番号	項目	種名	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業 実施区域との位置関係)			確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外		改変 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
					区域か ら 250m 以内	区域か ら 250m 以遠				
1	底生動物 (昆虫類 以外)	ハベ ^ゴ カリニナ	河川の開放水域(大川、淀川:本流)		○	○	無		D	D
2		クロダ ^ゴ カリニナ	河川の開放水域(大川)			○	無		D	D
3		カク ^ゴ チツボ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)			○	無		D	D
4		カサ ^ン ショウカイ	河川の市街地(人工物)、開放水域(淀川:干潟・止水域)	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
5		ウミ ^ゴ マツホ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)	○		○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
6		ミス ^ゴ マツホ	河川の開放水域(淀川:干潟・止水域)		○	○	無		C	C
7		トブ ^ゴ ガイ	河川の開放水域(大川)		○		無		D	D
8		トンガ ^リ ササノガイ	河川の開放水域(淀川:本流、大川)			○	無		D	D
9		イシ ^ゴ ガイ	河川の開放水域(淀川:本流、大川)		○	○	無		D	D
10		ヤマト ^シ ミ	河川の開放水域(淀川:本流、干潟・止水域)	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
11		ヨツ ^ハ コツ ^ゴ ムシ	河川の市街地(人工物)、開放水域(淀川:本流)等	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C

表 8-13-28 注目すべき生息地の予測結果概要

番号	項目	名称	確認位置の環境	確認位置(対象道路事業 実施区域との位置関係)			確認位置の 改変状況		生息環境 への影響	
				区域内	区域外		改変 の有 無	主な道 路構造	工事 中	供用 後
					区域か ら 250m 以内	区域か ら 250m 以遠				
1	注目す べき生 息地	コアジサシの 集団繁殖地	河川の乾性草地、 市街地		○		無		C	C
2		淀川(西中 島)	河川の湿性草地		○		無		D	D

② 予測結果

動物の重要な種及び注目すべき生息地の予測結果を以降に示します。

なお、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置については、対象道路区域内を極力利用することで動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としており、改変は道路構造物設置箇所周辺に限られることから、工事中の一時的な改変による環境変化は小さいと考えられます。

また、トンネル開削区間等における土地改変は、区間を移動しながら施工するため、著しい移動障害は生じないと考えられます。

a) 哺乳類

予測地域に存在すると考えられる重要な哺乳類の予測結果は、表 8-13-29(1)～(3)に示すとおりです。

表 8-13-29(1) 重要な哺乳類の予測結果（カヤネズミ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州中西部、四国、九州、淡路島、隠岐、対馬等に分布する。 ・低地から山地の草地、畑、休耕地、沼沢地等に生息し、イネ科植物が密生したところに多い。 ・種子、根菜、昆虫類等を採餌する。 ・5-11 月頃、繁殖のために、ギ、カヤ、スギ、ヨシ等の高茎草本の葉を編んで、地上巣を作り中で繁殖するという特異な習性をもつ。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地等において 59 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 24 箇所・250m 以遠 32 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 24 箇所・250m 以遠 32 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 24 箇所・250m 以遠 32 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷高茎草本の改変は、トンネル開削工事、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は無く、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-29(2) 重要な哺乳類の予測結果（キツネ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、淡路島に分布する。 ・低地から山地に広く生息するが、個体数は一般に多くない。 ・ネズミ類、鳥類、大型の昆虫等のほか、果実や人家のゴミ等も採餌する。 ・3-4月に平均4頭の仔を巣穴の中で出産し、夏まで家族群で生活する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、市街地等において7箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内4箇所・250m以遠1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内4箇所・250m以遠1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内4箇所・250m以遠1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の一部を改変するが、(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は生じない。また、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-29(3) 重要な哺乳類の予測結果（イタチ属の一種）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島、淡路島、小豆島、壱岐、五島列島、屋久島、種子島等に分布する。 ・西日本では近年、外来種の¹フォウセンイタチが優勢になり、イタチは山間部等に追い込まれている。 ・カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類等の陸上小動物のほか、水に入りザリガニ等の甲殻類や魚を採餌することも多い。 ・雌は一定の行動圏をもち、土穴等を巣とする。雄はいくつかの雌の行動圏に重なるような行動圏をもつ。九州では年2回繁殖し、一度に1-8頭、平均3-5頭の仔を産む。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の湿性草地等において31箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内11箇所・250m以遠4箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域内から250m以内6箇所・250m以遠8箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内11箇所・250m以遠4箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域から250m以内11箇所・250m以遠4箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域内から250m以内6箇所・250m以遠8箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地、水辺の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の一部を改変する。豊崎地区では(仮称)豊崎 IC ランプ部は橋梁形式で生息域の分断は生じない。鶴見地区の土工部分では生息域の分断の可能性はあるが、土工部の区間は一部に限られることに加え、本種は移動能力に優れ、橋梁構造下部を利用すると考えられることから移動経路は確保される。また、本種の生息に適した環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

b) 鳥類

予測地域に存在すると考えられる重要な鳥類の予測結果は、表 8-13-30(1)～(56)に示すとおりです。

表 8-13-30(1) 重要な鳥類の予測結果（カンムリカイツブリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に主に冬鳥として渡来するが、青森県や滋賀県等で局地的に繁殖している。 ・海岸や大きな河川、湖沼等に生息する。 ・潜水して主に魚類の他水生昆虫や両生類も採餌する。 ・繁殖期は4-9月。ヨシ原等の水辺に浮き巣をつくって繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において69箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 64 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 5 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 64 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 64 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水辺の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域等の改変は生じない。また、本種の生息に適した河川等の水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(2) 重要な鳥類の予測結果（ササゴイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に夏鳥として渡来し、南西諸島に冬鳥として渡来する。 ・水田、湖沼、河川等の水辺に生息する。 ・浅瀬で待ち伏せをして小魚やザリガニ、カエル等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。水辺近くのヤギや雑木林のほか、公園の林や街路樹に営巣するものもいる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、開放水域（淀川：本流）、低地の樹林地、開放水域（鶴見緑地）等において 15 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域外 12 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 2 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域外 12 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域外 12 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 2 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川浅瀬、湿性草地の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じない。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川、湿性草地は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(3) 重要な鳥類の予測結果（アマサギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として渡来し、本州、四国、九州の各地で繁殖する。西南日本や琉球諸島では越冬する個体もいる。 ・農耕地や草原、河原、湖沼地等に生息するが、他のサギ類と比べると乾いた草地を好む。 ・水田やハス田の畦道や草原で、イコ、バッタ等の昆虫やカエル等をよく採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。コサギ、チュウサギ、ダイサギ等と混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林等の樹上に営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所、及び鶴見地区で確認された。			
	確認時期	H25 春季、H26 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林、水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布すること、対象道路と鶴見緑地の樹林、水域とは影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(4) 重要な鳥類の予測結果（チュウサギ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州では夏鳥、九州の一部と沖縄では冬鳥として分布する。 ・平地の農耕地や湿地に生息し、池沼等の開水面では少ない。 ・水辺の草むらや水田で主に昆虫類、そのほか両生・爬虫類、魚類等も採餌する。 ・繁殖期は4-9月。水辺付近の雑木林、竹林等に営巣する。他のツバキ類と混生して集団繁殖する事が多い。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において4箇所を確認された。
	確認時期	H25 春季、H26 春季、夏季
	確認位置	豊崎 対象道路事業実施区域外4箇所 鶴見 確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-13-30(5) 重要な鳥類の予測結果（オシドリ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州北部では夏鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では冬鳥とされるが、一部で局地的に繁殖しているところがある。 ・山地の池沼や河川、ダム湖等に生息するが、渡り期には海岸で見られることもある。 ・雑食性だが、シ、カ、ナラ類等のドングリを好む。 ・繁殖期は4-7月。森林の水辺付近で樹洞に営巣する。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において1箇所を確認された。
	確認時期	H26 春季
	確認位置	豊崎 対象道路事業実施区域外1箇所 鶴見 確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-13-30(6) 重要な鳥類の予測結果（マガモ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、西日本での繁殖例が増えている。冬季は、北海道、本州、四国、九州、沖縄で多数が越冬する。 ・湖沼の水際の湿性草原に営巣し、付近の水上で餌をとる。冬季は山間のダム湖、平地のため池や河川から海岸・内海に至るまでの多様な水域に生息する。 ・草の種子や昆虫等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は 4-8 月。水辺の草むらや藪の下の浅い窪みに、草の葉等を敷いた皿型の巣をつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において 52 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 35 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 15 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 35 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 35 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 15 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適したな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の環境影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域等の改変は無く、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(7) 重要な鳥類の予測結果（ヨシガモ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に関東以西の本州、四国、九州で越冬する。北海道の一部では繁殖する。 ・平地の湖沼や貯水池、河川の中流から河口・内海に至る多様な水域の水面だけでなく、これに隣接する陸地にも上がって餌をとる。 ・草の種子、水生植物、水生の小動物等を採餌する。 ・繁殖期は 6-7 月。巣は、水辺の木株や土くれの上の草に覆われたところに、草の葉や茎で皿形につくり、産座に綿毛を敷く。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、乾性草地において 18 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 18 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 18 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 18 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(8) 重要な鳥類の予測結果（アメリカヒドリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州にしばしば渡来し越冬する。 ・平地の湖沼・河川の中流から河口、海岸の水面・水際に生息し、餌をとる。 ・草本の葉等の植物質を主に採餌する。 ・北アメリカ北中部で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(9) 重要な鳥類の予測結果（ホオジロガモ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季に北海道、本州、四国、九州等での沿岸部や大きな湖沼・河川で越冬する。 ・内海や海岸、河川の下流から河口、琵琶湖や海に近い大きなため池等に生息し、餌をとる。 ・軟体動物、甲殻類、小魚等を採餌する。 ・繁殖期は5-7月。スカンジナビア半島からシベリアにかけてのユーラシア大陸北部で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において8箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外8箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外8箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外8箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(10) 重要な鳥類の予測結果（ミコアイサ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・冬鳥として渡来し、北海道、本州、四国、九州の河川、湖沼、ダム湖等で越冬する。 ・琵琶湖や大きなため池、大きな河川の中下流から河口にかけて生息し餌をとる。内海でも見られる。 ・魚類、貝類、甲殻類等を採餌する。 ・繁殖期は5-7月。北アメリカ北部、スカンジナビア半島からシベリアにかけてのユーラシア大陸北部で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外1箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の確認された鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路と本種の確認された鶴見緑地の水域とは影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(11) 重要な鳥類の予測結果（ミサゴ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、南西諸島に留鳥として分布し、北日本のものは冬に南部へ移動する。 ・河川、湖沼、海岸等に生息する。 ・ほぼ完全な魚食性。水面上空で低空飛行を行いながら魚を探し、急降下して中型の魚を捕らえる。 ・繁殖期は3月中旬から始まり、樹上や尖塔状の岩礁上に枝や樹皮を利用して営巣する。豊富な餌のある場所では巣がかなり接近し、緩やかなコロニーを形成することがある。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、湿性草地等において確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内、実施区域外</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内、実施区域外				
鶴見	対象道路事業実施区域外				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川、鶴見緑地の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である水辺環境の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布する。換気塔は高さが30m~40mとなるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(12) 重要な鳥類の予測結果（オオタカ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・留鳥または漂鳥として北海道、本州、四国、九州で繁殖する。 ・低地から山地の森林に広く生息するが、主な生息地は水田や畑と森林が混在する低地から丘陵地である。中には小規模な林や都市公園内の緑地で繁殖するものもいる。 ・林の周辺、農耕地や水辺等の開けた場所で狩りを行い、キジやカラス類、ハク類等の鳥類が中心だが、リスやウサギ等の哺乳類も採餌する。 ・繁殖期は 2-7 月。主にアカマツ等の針葉樹に営巣する。早い個体では 1 月に求愛行動を開始し、4-5 月に産卵する。 	
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の湿性草地、低地の樹林地等において確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、H26 冬季、春季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域内、実施区域外
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である淀川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。換気塔は高さが 30m~40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

表 8-13-30(13) 重要な鳥類の予測結果（ハイタカ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国以北の丘陵地から山地に通年生息し、北海道と本州の一部で繁殖している。冬季にはほぼ全国で見られる。 ・ 山地の森林に生息し繁殖する。冬季は平地から山地の林や農耕地、時には市街地にも飛来する。 ・ 小・中型の鳥類を主に採餌するほか、小哺乳類や昆虫類を採餌することもある。 ・ 産卵期は 5 月頃。アカマツやカマツなどの針葉樹に営巣する。営巣環境としては、林内空間の閉じた若齢林を好む。 	
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の樹林地等において確認された。
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季、春季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域内、実施区域外
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は越冬や渡りの移動途中の個体が利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。換気塔は高さが 30m～40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は越冬や渡りの移動途中の個体が利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

表 8-13-30(14) 重要な鳥類の予測結果（ノスリ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・中部以北の本州、北海道で主に繁殖するが、中部以西の本州、四国、九州北部等でも少数が繁殖している。冬季は、北海道、本州、四国、九州で広く越冬する。 ・平地から低山にかけての開けた林から林縁部、あるいは農耕地や草地に生息し餌をとる。大きな河川の中流から下流にかけても見られる。 ・スズメ等の小哺乳類を主に採餌するほか、両生爬虫類や昆虫を採餌することもある。 ・産卵期は4月頃。本州と四国では標高500-1300mの山地の落葉広葉樹林、アカマツ林、カマツ林、または混交林のアカマツ、カマツ等にはほぼ円形の巣をつくる。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、低地の樹林地等において確認された。
	確認時期	H26 冬季、春季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川、鶴見緑地の水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は渡りの移動途中の個体が稀に利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である樹林等は改変しない。換気塔は高さが30m~40mとなるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、豊崎地区、鶴見地区ともに本種は渡りの移動途中の個体が稀に利用していると考えられ、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>	

表 8-13-30(15) 重要な鳥類の予測結果（チュウヒ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、東北、中部地方を中心に繁殖し、冬季は本州中部以南の珙原等に広く生息する。 ・珙原の広がる湖、河川（下流）、潟、埋立地に生息する。 ・主に珙類を捕食するほか、鳥類や魚類、昆虫等を捕食することもある。 ・繁殖期は 4-7 月。主に珙原で繁殖し、地上に珙等を主材に台座をつくり、イ科の植物を産座とする。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、開放水域（淀川：本流）において確認された
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季
	確認位置	豊崎
鶴見		確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布する。換気塔は高さが 40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

表 8-13-30(16) 重要な鳥類の予測結果 (ハヤブサ)

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州で留鳥、沖縄で冬鳥として分布する。 ・海岸地域や内陸の河川、湖沼、農耕地等に生息する。 ・主に小型-中型の鳥類を猛烈なスピードで急襲して採餌する。 ・産卵期は 3-4 月。主に海岸や河川流域などの開けた環境にある断崖や岩場で営巣する。ビル等の人工建造物で繁殖を試みた例も知られている。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、市街地等において確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域外
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の採餌環境である淀川沿いの樹林、草地環境は一部の改変に留まり、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。また、本地域では本種は主に餌場の一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な採餌環境である河川沿いの草地等の一部を改変するが、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林環境の改変は生じない。換気塔は高さが 30m~40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛行経路の著しい分断は生じない。また、本地域では本種は主に餌場一部として利用していると考えられるものの、営巣地は確認されていないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

表 8-13-30(17) 重要な鳥類の予測結果 (チョウゲンボウ)

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州中部以北と北海道で繁殖し、主に本州、四国、九州で越冬する。 ・平地や丘陵の草原、農耕地、海岸の干潟等の開けた場所に生息し、採餌する。河川の中流から河口にかけての開けた場所でも見られる。 ・鶺鴒等の小哺乳類、鳥類、大型の昆虫類等を採餌する。 ・産卵の大部分は 4-5 月。かつては限られた崖地でのみ営巣していたが、近年、人工建造物での営巣例が増えている。 	
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の市街地、低地の市街地等において確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域内、実施区域外 (営巣地1箇所)
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の営巣地が対象道路事業実施区域周辺 (事業実施区域から豊崎地区で約 250 m(地表部施工箇所から約 650m)、鶴見地区で約 100 m) で確認されており、対象道路事業実施区域内及びその周辺においても多くの繁殖行動が確認されている。</p> <p>騒音・振動及び人の存在による工事箇所周辺での繁殖活動への影響が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。</p> <p>また、本種の営巣地の改変は生じないほか、餌場となる淀川の改変はごく一部に限られ、営巣環境となる大川、鶴見緑地の改変は生じない。</p> <p>これらのことから、工事の実施による本種の営巣・生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の営巣地及びその周辺をトンネル構造で通過するため、改変は生じない。</p> <p>換気塔は高さが 30m~40m となるものの、横断的な大きさはなく、明かり部の橋梁構造は一部区間に限られるため、飛翔経路の著しい分断は生じない。また、本種の営巣地の改変は生じないほか、餌場となる淀川の改変はごく一部に限られ、営巣環境となる大川、鶴見緑地の改変は生じない。</p> <p>これらのことから、道路の存在による本種の営巣環境及び生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

表 8-13-30(18) 重要な鳥類の予測結果（クイナ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に北海道、及び本州の一部で繁殖し、関東以南の本州、四国、九州で越冬する。 ・平地から低山の湖沼、水田、湿地等の周辺の茂った草地に生息する。 ・草本の種子、昆虫、両生類、甲殻類等、さまざまな物を採餌する。 ・繁殖期は5-8月。湿地、水田、ため池の草原等で営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H26 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(19) 重要な鳥類の予測結果（ヒクイナ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に生息し、本州中部以西では留鳥だが、北日本のものは冬季に暖地へ移動する。 ・平地から低山の湖沼や河川、水田、湿地等の周囲の茂った植生の中に生息する。 ・昆虫類や両生類、小魚、イネ科植物の種子等を採餌する。 ・繁殖期は5-8月。草地の中等に営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (20) 重要な鳥類の予測結果 (オオバン)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に北海道、本州中部以北で繁殖するが、近畿、九州でも少数が繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・平地の湖沼、池、河川等に生息する。 ・雑食性で、水面上を泳ぎながら昆虫類や甲殻類のほか、植物の葉や種子を採餌する。 ・繁殖期は4-8月。草むらの中の水面に枯れ草を積み重ねて営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、低地の開放水域（鶴見緑地）等において84箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外67箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外15箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外67箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外67箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外15箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した流れの緩やかな水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水域の改変は生じない。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (21) 重要な鳥類の予測結果 (コチドリ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来する。渡りの時期には各地に現れ、九州以南では越冬する個体もいる。 ・河川敷、河川の中洲、河口、干潟、埋め立て地、海岸等の砂礫地や裸地に生息する。 ・昆虫等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は4-7月。地上に小石や貝殻等を敷いて簡単な巣をつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、乾性草地において6箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、H26 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外4箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外4箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外4箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、橋脚以外に本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (22) 重要な鳥類の予測結果（イカルチドリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道では夏鳥または留鳥、本州、四国、九州では留鳥、沖縄では冬鳥として分布する。 ・大きな河川の中洲、氾濫原や扇状地等の砂礫地に生息し、特に中流域に多い。 ・昆虫類やミズガ等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は3-7月。礫に窪みをつくり営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (23) 重要な鳥類の予測結果（シロチドリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道では夏鳥、本州、四国、九州、沖縄では留鳥として分布する。 ・大きい河川や砂浜海岸、埋め立て地等の砂礫地に生息する。 ・水生昆虫やミズガ、ゴカイ類等を採餌する。 ・繁殖期は4-7月。地上の浅い窪みに木片や小石を敷いて営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、開放水域（淀川：干潟・止水域）において13箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外13箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外13箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外13箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(24) 重要な鳥類の予測結果（ケリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に観察され、九州以北から本州にかけて繁殖するが局地的である。本州北部の個体は夏鳥として渡来する。 ・水田、河原、荒れ地、芝原、牧草地、灌木が散在する草原など、平坦で開けた場所に生息する。冬や渡り期には、湖沼や河川の水辺、水田、干潟等に現れる。 ・地上で昆虫類や草の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 3-6 月。田、畦、河川敷、荒れ地等に枯れ草等を敷いて営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、市街地等において 51 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 42 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 7 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 42 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 2 箇所、対象道路事業実施区域外 42 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 7 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水辺環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の水辺環境の改変は生じない。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(25) 重要な鳥類の予測結果（ハマシギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に旅鳥として渡来するほか、本州以南で多数が越冬する。 ・干潟や海岸、大きな河川、内陸の湿地等に群れで生息する。 ・貝類、コガイ類、甲殻類、ミズ、昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。ユーラシア大陸北部や北アメリカ北部、アイスランド、グリーンランドで繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 3 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 3 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 3 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 3 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の一部を改変するが(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (26) 重要な鳥類の予測結果 (ツルシギ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・国内では、主に渡りの時に通過するが、関東以西では越冬することがある。 ・干潟や河口でも見られるが、水田やハス田、湖沼等の内陸の淡水湿地に好んで生息する。 ・昆虫類やミズガキ類等を採餌するほか、カエル等の比較的大きい動物も採餌する。 ・繁殖期は 5-6 月。カシオペア半島北部からロシア極東北部の高緯度地域で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (27) 重要な鳥類の予測結果 (アオアシシギ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に旅鳥として渡来し、沖縄以南では越冬する個体もいる。 ・干潟や河口、内陸の水田や湿地等に小群で観察されることが多い。 ・昆虫、甲殻類、ミズガキ等を採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。カシオペア半島からシベリア東部までのユーラシア大陸の高緯度地域で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 4 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 4 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 4 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (28) 重要な鳥類の予測結果（キアシシギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に旅鳥として普通に渡来し、多い時には 100 羽を超える群れをつくることもある。南西諸島では少数が越冬する。 ・干潟や河口、埋立地、砂浜等に生息し、内陸の湿地、河川でもよく見られる。 ・昆虫、甲殻類等を採餌する。 ・繁殖期や繁殖についてはあまりわかっていない。7 月に巣が見つかり、8 月に雛が観察されている。ハリアで繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）において 11 箇所確認された。			
	確認時期	H25 春季、H26 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 11 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 11 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 11 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (29) 重要な鳥類の予測結果（イソシギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州で繁殖し、本州中部以南では越冬する。 ・河川や池沼、干潟、砂浜等、様々な水辺に単独で生息していることが多い。 ・昆虫のほか、軟体動物、甲殻類、ケ等も採餌する。 ・繁殖期は 4-7 月。地上に砂地を浅く掘り枯れ草等を置いて営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）等において 63 箇所確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域外 60 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域外 60 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域外 60 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(30) 重要な鳥類の予測結果（ソリハシシギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・旅鳥として春と秋に渡来するが、越冬することもある。本州南西部や九州、沖縄等は少数が冬季にも生息する。 ・干潟や河口、岩礁、砂浜、水田等に単独から数羽の群れで渡来し、数十羽の群れになることもある。 ・昆虫、小甲殻類等を採餌する。 ・5-7月、スカンジナビア半島からシベリア東部までのユーラシア大陸の高緯度地域で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、市街地において5箇所確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外5箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外5箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外5箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(31) 重要な鳥類の予測結果（チュウシャクシギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋に渡来するが、九州以南では少数が越冬する。 ・干潟や砂浜、岩礁、河口、農耕地等の様々な環境に、単独から数十羽の群れで生息する。 ・昆虫、カ、カメ等を採餌する。 ・繁殖期は6-7月。ユーラシア大陸、北アメリカ、グリーンランドの高緯度地域で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において4箇所確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外4箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外4箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外4箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は無く、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (32) 重要な鳥類の予測結果 (ウミネコ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、九州、及び周辺の島で繁殖する。非繁殖期は、本州、四国、九州等に広く生息する。 ・沿岸や周辺の離島で集団営巣する。冬季は、本州以南の海岸や河口に多数見られる。 ・魚、さまざまな死骸、生ゴミ等を採餌する。 ・繁殖期は4-7月。海岸の岩場等の地上で、集団で営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域 (淀川：本流) において2箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の生息地とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、現地での確認は、本種の主要な生息環境である沿岸部からは遠いため、採餌等のための飛翔確認と考えられる。採餌環境等の一部が(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部の工事によりごく一部が改変されるが、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主な採餌環境である水辺環境のごく一部を改変するが、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (33) 重要な鳥類の予測結果 (コアジサシ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、南西諸島に夏季渡来して繁殖する。 ・河川の中洲や湖沼、海岸、埋立地等の砂礫地に生息し、コロニーを作って繁殖する。 ・水辺を活発に飛び回り、水中にダイビングして小魚を捕らえる。 ・繁殖期は5-7月。砂地に窪みを掘り営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域 (淀川：本流)、低地の開放水域 (鶴見緑地) において 43 箇所を確認された。コアジサシの飛翔等は確認されたものの、コアジサシの繁殖は確認されなかった。			
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外 31 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 10 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外 31 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内2箇所、対象道路事業実施区域外 31 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 10 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布すること、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した河川敷の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布すること、鶴見緑地の水域の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (34) 重要な鳥類の予測結果（コミミズク）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州で越冬する。 ・草原性のワカウで、農耕地、河川敷、埋立地等開けた環境に生息する。 ・夕方や早朝に主に活動し、ネズミや小鳥等を採餌する。 ・繁殖期は5-8月。ユーラシア大陸の北部や北アメリカ大陸等で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息地の改変は無く、生息に適した水辺環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (35) 重要な鳥類の予測結果（カワセミ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、沖縄では留鳥として分布する。 ・平地から低山の湖沼、河川、湿地、用水路等の水辺で生息し、海岸や島嶼で見られることもある。 ・水に飛び込んで、魚を採餌する。 ・繁殖期は3-8月で、河川や池の岸、土砂採取場跡等の垂直な土質の壁に、深さ50-100cmの巣穴を掘り卵を産む。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）、河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において19箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 6 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 13 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 6 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 6 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 13 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した水辺環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路により(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (36) 重要な鳥類の予測結果（ヒバリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 九州以北から北海道までの全国で繁殖する。積雪の多い地方では冬に南下して越冬し、留鳥あるいは漂鳥として生息する。 牧場、草原、河原、農耕地、埋立て地に生息するが、丈の低い草が疎らに生え、露出した地面の多い乾燥地を好む。 地上を交互歩行しながら餌をあさり、草の実や昆虫を採餌する。 4月初旬から7月まで繁殖する。雌だけで地上に巣をつくり、外装にはヨモギの枯れ葉、ダイズの枯れ枝、ヒバの枯れ葉や茎を用い、内装には主にイネ科の枯れた根を使う。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地において4箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外4箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外4箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外4箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川敷草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (37) 重要な鳥類の予測結果（ビンズイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 中部以北で主に繁殖し、西日本では局地的に繁殖する。冬季は、北日本のものは南へ移動する。 北海道や東北地方では、海岸から山地までに普通に生息する。 草本の種子や昆虫等を採餌する。 4月下旬に繁殖地に渡来し、5-8月までに年2回繁殖する。巣は林縁の草の根元、崖、土手の窪み等にある例が多く、皿形か浅い碗形である。外装はイネ科の枯れた茎や葉を主材にしてつくり、内装にはヤドリゼンマイの綿毛や植物の細根、または菌糸束を利用する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川敷草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (38) 重要な鳥類の予測結果（ヒレンジャク）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に広く渡来する。 ・冬季に全国の低山から平野部、農耕地、市街地等に渡来する。 ・樹木の果実を採餌する。 ・シベリア、中国北部、アムル川周辺、ウスリーで繁殖する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の樹林地等において3箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外3箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外3箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外3箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていることから、環境変化は生じないと考えられる。また、本種の生息地の改変は無く、生息に適した樹林環境に変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、生息に適した樹林環境に変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (39) 重要な鳥類の予測結果（コルリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州中部以北に夏鳥として渡来し、本州中部以南では渡りの時期に渡来する。 ・低山から亜高山帯の落葉広葉樹林、針葉樹林の混交林に生息する。地上近くの下枝がよく繁った林を好む。春秋の渡り期には山麓の林を通過するので、平地の森林や公園等で見られることがある。 ・昆虫や蛙等の小動物を採餌する。 ・繁殖期は5-7月。比較的高地の落葉広葉樹林、特に低木やサが繁茂した林内で営巣し餌をとる。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の樹林地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外1箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外1箇所				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(40) 重要な鳥類の予測結果（ルリビタキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国等で繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、平地から山地の林、都市公園等で越冬する。 ・昆虫や樹木の果実等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。巣は、岩の間や下、樹木の根の間や下等の、穴蔵のような隠れたところを選ぶ。巣は椀形で、外装は蘚類、地衣類、草等、内装は落ち葉、シダ類の仮根、獣毛等で作る。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(41) 重要な鳥類の予測結果（ノビタキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州北・中部では夏鳥、本州南西部、四国、九州、沖縄では旅鳥とされるが、一部の高原では繁殖する。 ・背の低い草原に生息し、灌木や草の根元で営巣する。渡りの時期には平地の水田や河原を通過し、灌木の先や杭、草の葉先等に止まることが多い。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。巣は草むらの中の窪みや石の下の窪み等、地上の隠されたところにつくり、たいてい土くれ、石、草等からなるひさし型のカバーがある。巣は椀形で、外装は草の茎や枯れ葉、根等で作られ、内装は細い茎や根、植物の綿毛、獣毛、羽毛等で作る。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の乾性草地において 2 箇所確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主要な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の主要な生息地である、河川の乾性草地の一部が改変されるもののごく一部に限られるほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境である河川の乾性草地の一部が改変されるもののごく一部に限られるほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じない。また、本種の生息に適した乾性草地、樹林環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(42) 重要な鳥類の予測結果（オオヨシキリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州等に夏季渡来して繁殖する。 ・河川や休耕田等の草原に生息する。 ・草地内を移動しながら鱗翅類の幼虫や甲類等を採餌する。 ・繁殖期は5-8月。草の茎に営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、乾性草地等において62箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内5箇所、対象道路事業実施区域外57箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内5箇所、対象道路事業実施区域外57箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内5箇所、対象道路事業実施区域外57箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地、乾性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地、乾性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(43) 重要な鳥類の予測結果（メボソムシクイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道では夏鳥、本州、四国、九州では夏鳥または旅鳥として分布する。 ・主として亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林や針広混交林、落葉広葉樹林に生息する。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は6-8月。亜高山帯の針葉樹林や標高の高い地域の針広混交林の林内で営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において4箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外4箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外4箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(44) 重要な鳥類の予測結果（エゾムシクイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州等に夏季渡来して繁殖する。 ・亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林や落葉広葉樹林及び針広広葉樹林に生息する。 ・昆虫等を採餌する。 ・繁殖期は 6-8 月。倒木の根元や崖地の窪み等の地上に、横に出入りのある球状の巣をつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、湿性草地において 2 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 2 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 2 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(45) 重要な鳥類の予測結果（センダイムシクイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・平地から山地の雑木林等の落葉広葉樹林に生息する。 ・主に昆虫類を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。地上の窪みに営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 3 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 3 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 3 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (46) 重要な鳥類の予測結果（キクイタダキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・中部以北の本州、北海道等で繁殖し、北海道、本州、四国、九州等で越冬する。 ・平地から山地にかけての針葉樹林・針広混交林の林内・林縁に生息し餌をとる。 ・針葉樹の枝先で、昆虫やクモを採餌する。 ・繁殖期は 6-8 月。針葉樹の枝に、コケ、クモの糸、樹皮等で椀形の巣をつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (47) 重要な鳥類の予測結果（セッカ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・留鳥として、本州、四国、九州、南西諸島に分布し、北方の個体は冬に暖地に移動する。 ・平地から山地の草原や農耕地に生息する。 ・草地内を移動しながら昆虫類、クモ類を採餌する。 ・繁殖期は 4-9 月。イネ科植物をクモの糸でつづって営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、乾性草地等において 68 箇所確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、夏季、H26 冬季、春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 62 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 62 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 62 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地、乾性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。湿性草地、乾性草地環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地、乾性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30(48) 重要な鳥類の予測結果（キビタキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州で夏鳥として分布する。 ・平地から山地の広葉樹林に生息し、樹冠下の空間が広がる高木の林を好む。渡りの時期には市街地の公園でも観察される。 ・飛翔昆虫や葉上の昆虫等を飛びながら採餌する。 ・繁殖期は5-7月。樹洞や樹幹の割れ目に営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において16箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 2 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 14 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 2 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 2 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 14 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では地表部施工箇所と本種の生息地とは影響が生じない程度に十分離れていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である河川沿いの樹林地や鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である河川沿いの樹林地や鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(49) 重要な鳥類の予測結果（オオルリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・低山帯から亜高山帯の幅広く分布し、様々なタイプ^oの森林に生息する。渡りの時期には市街地の公園でも観察される。 ・主に昆虫を採餌する。 ・繁殖期は5-8月。主に溪流に面した崖の窪みに営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において3箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、H26 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 3 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 3 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(50) 重要な鳥類の予測結果（エゾビタキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・通過個体が定期的に渡来する。秋の渡り時に主に見られ、春の記録は稀である。 ・平地から山地にかけての山林またはその林縁部に出現し、餌をとる。 ・主に飛翔昆虫を採餌するほか、木の実も採餌する。 ・中国東北部、ウスリー、サハリン、千島列島、カムチャッカ半島で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の市街地において6箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 5 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 1 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区の生息地は市街地であり移動途中のものと考えられること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、豊崎地区の本種の生息地が改変されるが市街地であり移動途中のものと考えられること、本種の主要な生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は無く、本種の生息環境である樹林環境の変化は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は豊崎地区の本種の生息地を改変するが市街地であり移動途中のものと考えられること、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は無く、本種の生息に適した樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(51) 重要な鳥類の予測結果（コサメビタキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来する。 ・平地から低山の様々なタイプの森林に生息する。 ・横枝にとまって、空中に飛び出し飛翔昆虫を採餌する。 ・繁殖期は5-7月。高木の枝上に営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において5箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 5 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 5 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(52) 重要な鳥類の予測結果（サンコウチョウ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、南西諸島等に夏季渡来して繁殖する。 ・平地から 1000m 以下の山地に生息し、沢沿いの明るい広葉樹林やサギ、ヒノキの植林地で見られる。 ・主に昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-8 月。樹木の枝の股にコケやアカマツの葉等を利用して営巣する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息地である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の主要な生息環境である鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-30(53) 重要な鳥類の予測結果（ホオアカ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北日本の草地、西南日本では高原で繁殖する。 ・北海道、本州、四国、九州で繁殖し、本州、四国、九州で越冬する。 ・繁殖期には昆虫類、蛙類等を採餌し、非繁殖期には、草本の種子等を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。巣は草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に置くようにつくり、草や葉の茂みにうまく隠されている。巣は椀形で、外装には枯れ草、細根を、内装には細い茎や根、シダ類の仮根、獣毛等を使う。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域外 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域外 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (54) 重要な鳥類の予測結果（カシラダカ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・冬鳥として全域に現れ、本州以南で越冬する。 ・冬は低地や低山帯の農耕地、雑木林、疎林、湖畔や川辺の珪原や藪地で見られ、秋・春は亜高山帯の湿地周辺に現れる。 ・主としてイ科、ヤツガサ科、タテ科、マ科等の種子を採餌するほか、昆虫も採餌する。 ・繁殖期は5-7月。ユーラシア大陸の高緯度地方で繁殖する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。			
	確認時期	H26 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川の湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (55) 重要な鳥類の予測結果（アオジ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州で繁殖し、主に本州以南で越冬する。 ・冬季は平地から低山にかけての林内や林縁あるいは湖沼・河川・農耕地の珪原を含む草原に生息し餌をとる。 ・昆虫、植物の種子等を採餌する。 ・繁殖期は5-7月。地上1-2m ぐらいの藪の中の枝の又上に乗せるようにつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、低地の樹林地等において 48 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 26 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域外 16 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 26 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 26 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域外 16 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていること、鶴見地区では既存の幹線道路の敷地内で施工されることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、鶴見緑地の改変は生じない。同様の環境は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布し、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-30 (56) 重要な鳥類の予測結果（オオジュリン）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道に夏鳥として渡来し、本州中部以南で越冬する。 ・湖沼、河川敷、農耕地等の珶原に生息する。 ・嘴で珶の葉鞘をはがしたり茎を割って、中にいる昆虫を採餌する。 ・繁殖期は 5-7 月。巣は草株の根元の地上や草株の上、藪の小枝の中等に置くようにつくる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 24 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 18 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 18 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内 6 箇所、対象道路事業実施区域外 18 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、本種の生息する湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

c) 爬虫類

調査地域に存在すると考えられる重要な爬虫類の予測結果は、表 8-13-31 に示すとおりです。

表 8-13-31 重要な爬虫類の予測結果（ニホンスッポン）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の固有亜種。北海道を除く本土に在来分布する。奄美諸島のものは移入種。 ・平地から低山地の緩やかな流れや池沼、湖沼等に生息する。 ・主に昼間活動して魚、甲殻類、昆虫類、両生類等を採餌する。 ・4-6 月に交尾し、6-8 月、岸に穴を掘って 10-40 個を産卵する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 2 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 2 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 2 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することなく、周辺には同様の環境が分布する。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

d) 両生類

調査地域に存在すると考えられる重要な両生類の予測結果は、表 8-13-32 に示すとおりです。

表 8-13-32 重要な両生類の予測結果（トノサマガエル）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布する。 ・平地、丘陵地に生息し、4-6月に水田、浅い池等で繁殖する。 ・蛙、昆虫、ムシ等のほか、カエルも採餌する。 ・4-6月に1回、水田、溝、池等の浅い止水で繁殖する。1,800-3,000個の卵塊を水底に産む。幼生は6月下旬-9月に変態し、上陸する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の樹林地、河川の乾性草地等において9箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内2箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内6箇所・250m以遠1箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内2箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内2箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域から250m以内6箇所・250m以遠1箇所				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域、湿性草地及び豊崎地区の河川敷湿地環境を改変することはない、周辺には同様の環境が分布する。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の主要な生息環境を改変することはない、周辺には同様の環境が分布する。地下構造物による鶴見緑地の水域等の水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

e) 魚類

予測地域に存在すると考えられる重要な魚類の予測結果は、表 8-13-33(1)～(8)に示すとおりです。

表 8-13-33(1) 重要な魚類の予測結果（ニホンウナギ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道（日高地方、石狩川）、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 ・仔魚は黒潮にのって4-5ヶ月後に体の透明なシラスウナギへと変態しながら日本の沿岸に現われ、やがてクロ（体色が黒くなった幼魚）となって河川を遡る。一生を河口域で過ごすものもいる。河川を遡ったものは、そこで5-10数年間を過ごし、成熟したものは秋に海に下る。 ・夜行性で、暗くなると泳ぎ出て水生昆虫類、魚類等を採餌する。 ・産卵期は4-12月、産卵場はフィリピン東方海域といわれる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において2箇所確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内1箇所・250m以遠1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所・250m以遠1箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所・250m以遠1箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流にも生息に適した河川環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-33(2) 重要な魚類の予測結果（シロヒレタビラ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・濃尾平野を中心とする伊勢湾周辺域と琵琶湖から岡山県高梁川水系に至る本州中西部の瀬戸内周辺域に分布する。 ・砂礫底の河川ならびに湖沼に生息する。 ・付着性藻類を主食とする雑食性魚。 ・4月下旬-7月、タホシ、セイヤカイ、ドブガイ等に産卵する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において1箇所確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である淀川の改変は確認箇所下流の(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、影響が生じない程度に十分離れている。河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-33(3) 重要な魚類の予測結果（ワタカ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖水系の固有種とされるが、江戸期までは三方湖（福井県）にも分布していたとの記録がある。現在では、除草目的や湖産アユの放流に混じって移殖されたものが、関東平野、北陸地方、岡山平野、島根県（宍道湖）、山口県、福岡県等、国内各地に生息している。 本流ではあまり確認されず、河川敷に点在するワト^ト等で多く見られる。 暖期には水草を好んで食べ、特に夏季には水生植物を飽食する。エビ^ト類、水生昆虫等も採餌する。 産卵期は6-8月。産卵数は多く、移植地で相当数の繁殖が見られる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（古川）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	確認されなかった	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	確認されなかった				
鶴見(大池・古川)	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である古川を改変することなく、周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れているほか、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-33(4) 重要な魚類の予測結果（ハス）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖水系のほか、三方湖（福井県）にも生息するが、近年、三方湖では生息が確認されていない。日本固有亜種。かつて盛んに行われた琵琶湖産稚アユの放流に混じって移殖された結果、現在では、北海道を除く各地の河川、湖沼での生息が確認されている。 日本産コイ科魚類の中では数少ない肉食性の魚であり、体長18cm以上の成魚ではほぼ魚類専食となる。ただし、体長7cm以下のものは、動物プランクトンを専食する。 産卵期の5月下旬-8月中旬になると成魚は産卵のため接岸または流入河川に遡上し、流れの緩やかな砂または砂礫地で産卵する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-33(5) 重要な魚類の予測結果（アユ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道西部以南の日本各地に分布する（奄美大島・沖縄島のは別亜種）。 ・全長 8-10cm の個体が集団で遡上し、石礫のある瀬で定着する。 ・石に付着した珪藻類を採餌する際、櫛状の歯によって、はみあとができる。 ・産卵期は、北方では 8 月下旬-9 月、南方では 10 月下旬-12 月。孵化した仔魚は海に下ったあと、春になると遡上する。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域及びその周辺
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-33(6) 重要な魚類の予測結果（ミナミメダカ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬や屋久島等周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。 ・平野部の河川や湖沼、水田地帯の用水路等に生息し、止水や緩流域を好む。 ・水面付近で群れを作り動物プランクトンや小型の落下昆虫等を採餌する。 ・産卵期は 4 月中旬-8 月頃。産卵は早朝に雌雄がペアとなって行われる。雌は受精後の卵をしばらく腹に付けたまま泳ぎ、やがて水草等に産み付ける。5-6 月に生まれた個体の一部は夏の終わりまでに成熟するが、多くは翌年春に成熟し、産卵後に死亡する。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（淀川：干潟・止水域）において 3 箇所確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 2 箇所
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流にも生息に適した河川環境が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-13-33 (7) 重要な魚類の予測結果 (シマヒレヨシノボリ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・自然分布域は、瀬戸内海沿岸地域の中・東部から大阪湾を経て紀伊水道に至る沿岸地域と推察される。 ・池や沼、それにつながる水路、河川では中流域から下流域のワト、入り江状の河岸、堰堤上流の溜まり、河川敷にある池、本流の暖流部等の止水域に生息し、泥底を好む。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において8箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠8箇所</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	確認されなかった	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	確認されなかった				
鶴見(大池・古川)	対象道路事業実施区域から250m以遠8箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することは無い。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-33 (8) 重要な魚類の予測結果 (旧トウヨシノボリ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・未熟個体のため同定が困難であったため、型不明の旧トウヨシノボリとした。ただし、シマヒレヨシノボリの可能性がある。 ・生態については、シマヒレヨシノボリを参照。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において3箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠3箇所</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	確認されなかった	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	確認されなかった				
鶴見(大池・古川)	対象道路事業実施区域から250m以遠3箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することは無い。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、周辺には同様の環境が分布する。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

f) 昆虫類

予測地域に存在すると考えられる重要な昆虫類の予測結果は、表 8-13-34(1)～(20)に示すとおりです。

表 8-13-34(1) 重要な昆虫類の予測結果（キイトトンボ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布し、佐渡島、隠岐、見島、壱岐、対馬、五島列島、甌島列島、大隅諸島等の島々をふくむ広い地域に生息している。 ・成虫・幼虫ともに主に平地ないし低山地の抽水植物や沈水植物が茂る池沼や、湿地の浅い滞水・水田・水郷のほとんど流れを感じない溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。草間を低く飛んで餌を探し、草にとまっている小虫や、死の幼生を追い立てて狩る性質がある。 ・水辺の抽水植物の水面にたまたま生葉や沈水植物等にとまり、その水面直下の生態組織内に産卵する。水面に浮かぶ柔らかい植物の枯死組織に産卵することもある。静岡県では5月中旬-9月上旬、三重県北部や愛知県西部では、5月下旬頃-9月まで見られる。 	
予測地域における確認状況	確認状況	低地の湿性草地において1箇所を確認された。
	確認時期	H26 夏季
	確認位置	豊崎
鶴見		対象道路事業実施区域から250m以内1箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘割工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-13-34(2) 重要な昆虫類の予測結果（セスジイトトンボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布し、佐渡島、見島、五島列島、甌島列島等の島々にも生息している。 ・主に平地や丘陵地の抽水植物や浮葉植物あるいは沈水植物が茂る池沼や湖、水郷のほとんど流れの無い溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・主に浮葉植物や沈水植物の水面直下の生態組織内へ産卵するが、水面にたぐよ植物の柔らかい枯死組織内へ産むこともある。しばしば雄とともに完全に水中に潜って潜水産卵する。東海地方では5月初旬から9月末まで、四国南部では10月まで見られるが、盛夏の候に最も多い。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び周辺樹林等を改変することなく、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域及び周辺樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(3) 重要な昆虫類の予測結果（アオサナエ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特産種で本州、四国、九州に分布する。 ・平地から丘陵地の川の中流域に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・水面上でかびんぐし、腹端に卵塊を作って、その重みで落下する産卵を行う（停止飛翔産卵）。また、卵塊が出来るたびに打水産卵を行う場合もある。東海地方では4月下旬-7月下旬まで見られる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地は影響が生じない程度に十分離れているほか、本種の生息に適した河川環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れており、また、本種の生息に適した河川環境は改変されないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(4) 重要な昆虫類の予測結果（ホンサナエ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特産種で北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から丘陵地の川の中流域に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・成熟した雄は川岸の土の上に静止して雌を待つ。雌は単独で河畔の植物等に静止し、腹端に卵塊を作って飛び立ち、1-2回打水産卵する。東海地方では4月初旬-6月末頃まで見られ、5月の連休明けくらいに最も多い。近畿地方では4月中旬-7月下旬の記録があり、琵琶湖北部では5月中旬に羽化のピークを迎える。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、生息に適した河川環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(5) 重要な昆虫類の予測結果（ウチワヤンマ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・青森から鹿児島にいたる本州、四国、九州に分布し、粟島・佐渡島・杵岐・平戸島・五島列島等の島々にも産する。 ・主に平地や丘陵地の抽水植物や浮葉植物が茂る大きく深い池沼や湖等に生息し、水郷地域のヨシやマコモ・ガマ等が生える溝川にも産する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・腹端で浮遊物を断続的に打って産卵する。東海地方では5月下旬-9月中旬まで見られ、滋賀県では11月の採集記録もある。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）、樹林地において7箇所、及び豊崎地区で確認された。			
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠7箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	対象道路事業実施区域から250m以遠7箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び周辺樹林地から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の樹林環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的変化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34 (6) 重要な昆虫類の予測結果 (オオサカサナエ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖とこれに流入・流出する河川に分布・生息する種であるが、三重県の雲出川でも記録がある。 幼虫は河川の本流部に生息する。 幼虫・成虫とも肉食。 岸辺の植物の葉上にとまって産卵弁の間に卵塊を蓄え、適度な卵塊ができると水面を訪れて打水産卵する。また長時間一定水域の上を数十 cm 以下の低空で敏速に飛びまわりながら周期的に打水産卵することもある。成虫は6月上旬-10月上旬の記録があるが、7月下旬-9月上旬に多い。雄は水面を低く飛んで雌を探す。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事を行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、生息に適した河川環境は広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34 (7) 重要な昆虫類の予測結果 (コフキトンボ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 北海道の一部、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 ㊦等のある開放的な池沼や緩やかな流れ、河川敷等に生息する。 幼虫・成虫とも肉食。 水面をただよう浮遊物等に腹端を連続的に打って産卵する。東海地方では5月中旬-10月初め頃まで見られる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地、湿性草地等において 5 箇所、及び鶴見地区で確認された。			
	確認時期	H25 春季、夏季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 4 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 4 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 4 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34(8) 重要な昆虫類の予測結果（ヨツボシトンボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から山地の珙、ヒカガマ等の抽水植物が繁茂する水が涸れないような池沼に生息し、幼虫は水底の植物遺体の間に潜んでいる。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・繁茂する抽水植物の間に潜り込んだり、その際のごく浅い水面上を 10cm 前後の高さでハリングしながら、腹端で連続飛水して産卵する。東海地方では 4 月下旬-6 月下旬、また高知県では 4 月初旬-6 月中旬にかけて出現する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	鶴見地区において確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域及び湿性草地を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。</p>				

表 8-13-34(9) 重要な昆虫類の予測結果（アキアカネ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・平地から低山地の水田や湿地、池沼等に生息し、幼虫は沈積物の陰や泥の上等にうずくまっている。羽化した個体は山地の頂上付近や溪流沿い等に移動して成熟を待ち、秋に羽化場所に戻って生息活動を行う。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・腹端で水面や水際の湿った泥面を連続的に打ちつけ、ときには少しずつ前方へ移動しながら継続する。東海地方では通常 6 月上旬-12 月中旬まで見られ、5 月初めの羽化記録もある。 				
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の生息に適した河川等の水域の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した河川等の水域は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-34(10) 重要な昆虫類の予測結果（ノシメトンボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布し、南千島の国後島・飛島・粟島・佐渡島・隠岐・見島・壱岐・対馬・天草諸島・甌島列島等の島々にも産する。 ・主に平地から低山地の水際に植物が繁茂する水深の浅い開放的な池沼や水田、溝川等に生息する。 ・幼虫・成虫とも肉食。 ・抽水植物の繁茂する水域や穂をたれた稲田に飛来し、植物のすぐ上を停滞気味に超スローテンポで飛びながら、草丈すれすれの空間を連続的に腹端で打って卵をふりとばすようにばらまく。東海地方では6月中旬-11月末頃に見られ、7-10月に多い。 				
予測地域における確認状況	確認状況	鶴見地区において確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域及びその周辺				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である溜池や湿性草地を改変することなく、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする溜池や湿地環境の改変は生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(11) 重要な昆虫類の予測結果（ウスヒラタゴキブリ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 ・照葉樹林の林縁部やマツ群落、広葉樹の葉間に生息する。 ・卵鞘は光沢のない灰褐色で、葉面に付着されると考えられる。年に2世代くらいで、幼虫でも冬を越すと考えられる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以内1箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布するほか、樹林環境の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34(12) 重要な昆虫類の予測結果（ミスジチョウ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、奥尻、対馬に分布する。 ・主に山地の樹林等に生息する。 ・地上で給水したり、獣糞に集まる。幼虫はカゲ科のイワカゲ、ヤマミジ等を採餌する。4 齢幼虫で越冬する。 ・成虫は年 1 回、5-6 月に出現し、梢付近を飛ぶ。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(13) 重要な昆虫類の予測結果（ウスアオリングア）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方以西の本州、四国、九州、対馬に分布する。 ・低山地から山地の落葉広葉樹林、照葉樹林に生息する。 ・成虫は年 2 回、6-9 月に出現する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の樹林地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である淀川右岸樹林等を改変することなく、周辺の樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする淀川右岸樹林等から影響が生じない程度に十分離れており、周辺の樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(14) 重要な昆虫類の予測結果（ハマベミズギワゴミムシ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州に分布する。 ・河口付近の葦原に多い。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺環境の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息に適した水辺の改変は、（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34(15) 重要な昆虫類の予測結果（スジヒラタガムシ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の開放水域（鶴見緑地）において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である鶴見緑地の水域を改変することはなく、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする鶴見緑地の水域から影響が生じない程度に十分離れており、溜池及び周辺の湿地環境の改変も生じない。また、地下構造物による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(16) 重要な昆虫類の予測結果（ドウガネブイブイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、種子島、屋久島、対馬に分布する。 ・ブドウ・スギ等の害虫として知られ、その葉を食害する。 ・また、夜間燈火によく飛来する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の樹林地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林環境を改変することは無いことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林環境から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34(17) 重要な昆虫類の予測結果（ジュウクホシテントウ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・河川の珪原等に生息する。 ・成虫、幼虫ともに珪につくアブラムシ類等を採餌する。 ・成虫は4-8月に見られる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において14箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域から250m以内3箇所・250m以遠10箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域から250m以内3箇所・250m以遠10箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域内1箇所、対象道路事業実施区域から250m以内3箇所・250m以遠10箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺環境の改変は（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、（仮称）豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34(18) 重要な昆虫類の予測結果（モンスズメバチ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・営巣場所は比較的大きな樹木の空洞が多く、人家の屋根裏等につくこともある。いずれの場合も閉鎖されて暗い空間を選ぶ。 ・餌は大型の昆虫類で、セミ類を最も好む。 				
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H24 秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>確認されなかった</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所</td> </tr> </table>	豊崎	確認されなかった	鶴見
豊崎	確認されなかった				
鶴見	対象道路事業実施区域から250m以遠1箇所				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の主要な生息環境である樹林環境を改変することは無いことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が生息環境とする樹林環境から影響が生じない程度に十分離れており、樹林環境の改変も生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-34 (19) 重要な昆虫類の予測結果 (キアシハナダカバチモドキ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布する。 ・海岸や河川下流域の砂地に生息する。 ・ハツタ類を狩り、地中に営巣する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の樹林地、市街地等において 7 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季、H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 2 箇所</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 1 箇所				
鶴見	対象道路事業実施区域から 250m 以内 2 箇所・250m 以遠 2 箇所				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した水辺や樹林地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した水辺や樹林地は周辺に広く分布するほか、鶴見緑地の樹林地の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-34 (20) 重要な昆虫類の予測結果 (キバラハキリバチ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州に分布する。 ・夏季出現し、地中に営巣する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所を確認された。			
	確認時期	H26 夏季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息に適した湿性草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による生息環境の改変は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生息に適した湿性草地は周辺に広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

g) クモ類

予測地域に存在すると考えられる重要なクモ類の予測結果は、表 8-13-35(1)～(4)に示すとおりです。

表 8-13-35(1) 重要なクモ類の予測結果（キシノウエトタテグモ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方南部以南の本州、四国、九州に分布する。 ・人家近くの崖地や、神社・仏閣の石垣の間、旧家の庭先等に、横穴を掘って生息する。横穴の入口には、糸で裏打ちされた開閉式の蓋がある。 ・近くを通る昆虫やワジミを捕獲し、横穴に引き込んで摂食する。 	
予測地域における確認状況	確認状況	低地の樹林地において1箇所確認された。
	確認時期	H24 秋季
	確認位置	豊崎 確認されなかった 鶴見 対象道路事業実施区域から250m以内1箇所
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地は、影響が生じない程度に十分離れている、また、本種の生息に適した樹林等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地から影響が生じない程度に十分離れており、また、本種の生息に適した樹林等の改変は生じないことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-13-35(2) 重要なクモ類の予測結果（コガネグモ）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州中・南部、四国、九州、南西諸島に分布する。 ・樹枝間や草間、人家の軒下等に大きな垂直円網を張る。 ・成熟期は6-7月。卵のうは扁平で木の葉状のものである。 	
予測地域における確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。
	確認時期	H25 春季
	確認位置	豊崎 対象道路事業実施区域及びその周辺 鶴見 確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。	

表 8-13-35 (3) 重要なクモ類の予測結果 (カコウコモリグモ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州中部以南、九州に分布する。 ・河口付近の葦の草間に生息する。 ・成体は3月下旬-6月に見られる。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した河川敷草地は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-35 (4) 重要なクモ類の予測結果 (テジロハリゲコモリグモ)

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州に分布する。 ・平地から山地にかけて生息する。畑地や草原の湿った場所や池の縁等に見られる。 ・成体は4-8月に見られる。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	豊崎地区において確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域及びその周辺</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域及びその周辺				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川敷草地の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、本種の生息に適した河川敷草地は、周辺にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、上下流側にも生息に適した河川敷草地が広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

h) 底生動物（昆虫類以外）

予測地域に存在すると考えられる重要な底生動物（昆虫類以外）の予測結果は、表 8-13-36(1)～(11)に示すとおりです。

表 8-13-36(1) 重要な底生動物の予測結果（ハベカワニナ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖・淀川水系の固有種である。 砂礫地に生息し、穏やかな流れの礫間の砂地にかたまっている。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）、開放水域（淀川：本流）において3箇所を確認された。	
	確認時期	H25 冬季、春季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 2 箇所
鶴見(大池・古川)		確認されなかった	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事を行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(2) 重要な底生動物の予測結果（クロダカワニナ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> 本州（東海地方、近畿地方、中国地方東部）に分布する。 流れの緩やかなところや止水域に生息し、泥底や礫底、ときには沈水植物等に付着している。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において1箇所を確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所
鶴見(大池・古川)		確認されなかった	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事を行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36 (3) 重要な底生動物の予測結果（カワグチツボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・東京湾、東北から九州北部に分布する。 ・淡水の影響する内湾奥部や潟湖、河口汽水域の干潮時、浅場となる泥上やアナオサやシガサ等の葉上に生息し、ウゴマツボとしばしば混生する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において1箇所を確認された。			
	確認時期	H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地の干潟・止水域を改変することなく、周辺の河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種の生息地の干潟・止水域から影響が生じない程度に十分離れていることから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-36 (4) 重要な底生動物の予測結果（カワザンショウガイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・青森以南の本州、四国、九州に分布する。 ・河川の汽水域、アソ原の泥上。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の市街地(人工物)、開放水域（淀川：干潟・止水域）等において7箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-36 (5) 重要な底生動物の予測結果（ウミゴマツボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州（太平洋側は宮城県以南、日本海側は新潟県以南）、四国、九州に分布する。 ・内湾や河口の汽水域の砂泥や岩礫上、ヒエガサ等の葉上に生息する。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 2 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以遠 1 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-36 (6) 重要な底生動物の予測結果（ミズゴマツボ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州（太平洋側は青森県以南、日本海側は新潟県以南）、四国、九州に分布する。 ・汽水域の最奥部で、僅かに潮の影響がある場所の珉原泥底に生息する。内陸の良好な状態の水田等に海進時の遺存的な個体群が存在していることもある。 ・繁殖期は 6-8 月と推定されている。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）において 6 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季、H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 3 箇所・250m 以遠 3 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>				

表 8-13-36(7) 重要な底生動物の予測結果（ドブガイ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・水のある池、川の流れ込み、水田の用水路等の泥底に生息する。 ・水中の有機物やプランクトンをろ過して食べる。グロキディウム幼生は、メダカ、ヨシノボリなどのヒレ等に寄生して育つ。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（大川）において1箇所確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以内1箇所
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、本種の生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(8) 重要な底生動物の予測結果（トンガリササノハガイ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地方・福井県以西の本州、四国、九州北部に分布する。 ・河川や池沼の砂泥底の流れのあるところに生息する。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（大川）において2箇所確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から250m以遠2箇所
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-13-36(9) 重要な底生動物の予測結果（イシガイ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道南部から本州、四国、九州にかけて全面的に分布する。 ・池沼、河川、用水路等の砂泥底、砂礫泥底に生息する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）、開放水域（大川）において 4 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 3 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 3 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 250m 以内 1 箇所・250m 以遠 3 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息地である大川及び淀川大堰上流側では地表部の工事は行わないことから河川への影響は生じない。また、本種の生息環境下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路は本種が確認された大川及び淀川大堰上流側を地下構造で通過することから生息河川の改変は生じない。また、上下流にも生息に適した河川環境が分布することから、本種の生息環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-13-36(10) 重要な底生動物の予測結果（ヤマトシジミ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に広く分布する。 ・河川の河口周辺の汽水域や海岸沿いの汽水湖に生息する。 				
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：干潟・止水域）、開放水域（淀川：本流）において 33 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、春季、H26 冬季、秋季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 16 箇所・250m 以遠 10 箇所</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 16 箇所・250m 以遠 10 箇所	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 16 箇所・250m 以遠 10 箇所				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-13-36(11) 重要な底生動物の予測結果 (ヨツバコツブムシ)

項目	内容		
生態	・内湾域の汀線付近の転石や漂着物の下、または泥岩や木材等に穿孔する。		
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の市街地(人工物)、開放水域(淀川：本流)等において7箇所を確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 秋季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所、対象道路事業実施区域から 250m 以内 5 箇所・250m 以遠 1 箇所
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による影響については、本種の生息環境である河川の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。また、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	道路の存在による影響については、対象道路による本種の生息環境の改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られ、生息に適した主要な生息環境は上下流にも広く分布することから、本種の生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

i) 注目すべき生息地

予測地域に存在する注目すべき生息地の予測結果は、表 8-13-37(1)～(2)に示すとおりです。

表 8-13-37(1) 注目すべき生息地の予測結果（コアジサシの集団繁殖地）

項目	内容		
生態等	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、南西諸島に夏季渡来して繁殖する。 ・河川の中洲や湖沼、海岸、埋立地等の砂礫地に生息し、コロニーを作って繁殖する。 ・水辺を活発に飛び回り、水中にダレヅグして小魚を捕らえる。 ・繁殖期は5-7月。砂地に窪みを掘り営巣する。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域（淀川：本流）において33箇所を確認された。コアジサシの飛翔等は確認されたものの、コアジサシの集団繁殖地及びその周辺における本種の繁殖は確認されなかった。	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内
		鶴見	—
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、コアジサシの集団繁殖地の改変は生じないほか、本種の生息に適した河川敷の改変は（仮称）豊崎ICランプ橋脚部のごく一部に限られ、同様の環境は周辺に広く分布することから、コアジサシの集団繁殖地及びコアジサシの生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、コアジサシの集団繁殖地の近傍はトンネル構造となるため、改変は生じない。また、対象道路による生息環境の改変は（仮称）豊崎ICランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、同様の環境は周辺に広く分布することから、コアジサシの集団繁殖地及びコアジサシの生息環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

注) 生態、確認状況は、コアジサシの集団繁殖地周辺におけるコアジサシのものを示しています。

表 8-13-37(2) 注目すべき生息地の予測結果（淀川（西中島））

項目	内容		
生態等	<ul style="list-style-type: none"> ・淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。 		
予測地域における確認状況	確認状況	ウチワヤンマ、コフキトンボ等の昆虫、ヤマトシジミ等の底生動物が確認されたが、ヒヌマイトトンボは確認されなかった。	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から250m以内
		鶴見	—
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による影響については、騒音や振動、人の存在による環境変化が考えられるが、豊崎地区では主な工事箇所と本種の主な生息環境とは淀川の堤防で隔たれていることから、環境変化は小さいと考えられる。また、淀川（西中島）の改変は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、淀川（西中島）への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	道路の存在による影響については、淀川（西中島）は淀川を挟んで対象道路の対岸に位置し、改変は生じないことから、淀川（西中島）への影響は無いものと予測される。		

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討の状況

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響について、事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として表 8-13-38 に示すとおり、環境保全措置の検討を行いました。

表 8-13-38 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置		実施の 適 否	適否の理由
回避・ 低減	低騒音型・低振動型建設機械の使用	適	低騒音型・低振動型の建設機械を使用することにより、対象道路事業実施区域及び周辺を生息範囲とする動物種への影響を低減することが見込まれます。
	動物の一時的移動に配慮した段階的施工	適	河川敷における植生の伐採等の施工の際、段階的な施工を行うことにより、一時回避する動物種の移動時間、移動経路の確保が見込まれます。
	工事従事者への講習・指導	適	工事区域外への立ち入りや重要な種の分布地への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による影響の低減が見込まれます。

(2) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

環境保全措置としては、「低騒音型・低振動型建設機械の使用」、「動物の一時的移動に配慮した段階的施工」及び「工事従事者への講習・指導」を実施します。

環境保全措置の実施主体は事業者です。環境保全措置の実施内容等の検討結果は表 8-13-39(1)～(3)に示すとおりです。

なお、環境保全措置の具体的な位置、仕様等については、事業実施の施工計画段階で有識者、関係機関等の意見を踏まえた上で検討することとします。

表 8-13-39 (1) 環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	低騒音型・低振動型建設機械の使用
	位置	地表部工事箇所
保全措置の効果		対象道路事業実施区域及び周辺を生息範囲とする種への影響を低減することができます。
他の環境への影響		なし

表 8-13-39 (2) 環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	動物の一時的移動に配慮した段階的施工
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		河川敷を生息環境とする種の移動時間、移動経路の確保が期待できます。
他の環境への影響		なし

表 8-13-39 (3) 環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	工事従事者への講習・指導
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		人為的な攪乱による影響を低減できます。
他の環境への影響		なし

4) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

(2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、主にトンネル構造を採用するとともに、明かり部・換気所については極力既存道路の敷地を利用し動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としています。また、明かり部については主に橋梁構造とし、土工部の区間は一部に限られるほか、トンネル開削区間等における土地改変は、区間を移動しながら施工するため、動物の移動経路の分断をできる限り避けた計画としています。さらに、換気所については、極力地下構造とすることで地上部への構造物の出現を極力避け、換気塔の幅も極力抑えた計画としています。

工事施工ヤード及び工事用道路等については、対象道路事業実施区域内及び既存道路を極力利用することで動物の生息環境の改変をできる限り避けた計画としているほか、河川内の橋脚の設置を極力回避するとともに、止水性の高い適切な仮締切工法の採用、必要に応じて仮設沈砂池等の設置を行うことで、水生動物の生息環境への影響をできる限り避けた計画としています。

予測の結果、重要な哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、底生動物及び注目すべき生息地への影響は無い又は極めて小さいと予測されました。

また、環境保全措置として、表 8-13-39 に示す「低騒音型・低振動型建設機械の使用」、「動物の一時的移動に配慮した段階的施工」、「工事従事者への講習・指導」を実施することとしています。

これらのことから、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る動物に関する影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。

なお、予測し得ない影響が生じた場合は、必要に応じ有識者等の助言を得ながら別途対策を講じることとします。